

令和元年度

# 事業報告

社会福祉法人 品川総合福祉センター

## 目 次

法人事業報告	1
法人研修事業報告	5
安全衛生委員会事業報告	7
地域福祉課事業報告	9

### 障害者群

1. 障害者支援施設 かもめ園（知的障害部門）事業報告	13
2. 障害者支援施設 かもめ園（身体障害部門）事業報告	17
3. 障害福祉サービス事業 サンかもめ事業報告	21
4. 障害福祉サービス事業 鮫洲なぎさの家事業報告	23
5. 障害福祉サービス事業 さつき事業報告	25
6. 障害福祉サービス事業 福祉工場しながわ事業報告	29
7. 品川区立心身障害者福祉会館事業報告	33
8. 保育所 八潮中央保育園事業報告	47

### 高齢者群

1. 特別養護老人ホーム かえで荘事業報告	49
2. 特別養護老人ホーム 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告	53
3. 特別養護老人ホーム 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告	57
4. グループホーム八潮南事業報告	61
5. 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告	65
6. 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告	67
7. 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告	69
8. 在宅介護支援センター事業報告	71
9. 品川区中延障害者計画相談支援事業所事業報告	73
10. 品川区立高齢者住宅 八潮わかくさ荘事業報告	75
11. 品川区立高齢者住宅 大井倉田わかくさ荘事業報告	77
12. 品川区立大井三丁目高齢者憩いの場事業報告	79

# 令和元年度 法人事業報告

## 1. 総括

本年度は、当法人の3重点課題（人権尊重、人材育成、収支改善）を掲げた中期経営計画（当年度から3か年）の初年度にあたり、法人全体で課題達成に向けた取り組みを3部会で分担し進めてきた。

- (1) 利用者の人権への配慮、障害特性の理解に基づいた支援と環境の提供、利用者ニーズを中心に据えた支援を進め、職員に、より専門性の高い支援と対人援助専門職としての人権意識および倫理観を教育してきた。また、埋もれた事例を掘り起すため、年度後半に職員調査を実施した。
- (2) 採用試験は年間を通じ実施し、良質な人材の採用に向け最大限力を尽くしてきた結果、次年度に向けた新規職員採用も予定に近い14人を得ることができた。一方では働きやすい職場作りに力を尽くし、人間関係の調整をした結果、年度内の依願退職も6人と少なかった。
- (3) 支出減を目的としてビル管理・給食の業務委託についての検討を進めた。また、収入増、稼働率向上に向け部会、委員会活動による進行管理を進めた。しかし、様々な要因により目標稼働率を達成した事業は障害者事業（全11事業）で4事業、高齢者事業（全12事業）で2事業と結果が出ず、大きな課題を残した。そのため法人全体の収支差額は大きな赤字が生じた。

## 2. 諸課題解決に向けて

### (1) 事業管理

- ①品川区立心身障害者福祉会館は指定管理更新初年度にあたり、法人全体で取り組み、同館の事業改革を進めた。毎月品川区との連絡会の場で、その進行管理、情報共有を進めた結果、順調に事業を展開できた。
  - ・移動支援従業者養成研修の開講を整備したが、新型コロナウイルスの影響で年度内は見送った。
  - ・障害者生活支援センターにおいて障害児の相談支援を開始した。
- ②荏原地区の障害者施設開設の準備を進めた。
- ③中延在宅サービスセンターにおいて、共生型生活介護事業の準備を進めた。
- ④12月、中延在宅介護支援センターに、中延障害者計画相談支援事業所を開設した。
- ⑤7月、品川区による大井在宅介護支援センターの現地検査があり、居宅介護支援事業者としての運営基準違反が指摘された。基準違反

により特定事業所加算の返還が生じた。

## (2) サービス管理

- ①職員の人権意識やサービス意識の向上に向け、サービス向上委員会、虐待防止委員会を定期的を開催し、職員の支援状況の実態把握、必要な教育、育成、サービス点検を進めた。
- ②苦情解決第三者委員会・サービス点検調整委員会を適切に運営、委員からの助言等を利用者サービスの向上に活かしてきた。また品川区サービス向上研究会の活動に積極的に参加、同会作成の品川区版サービス自己評価等を活用してきた。法人内では相互視察を実施し相互検証を進めた。
- ③施設稼働率向上に向け、施設稼働率向上担当課長（高齢者施設・障害者施設）を引き続き配置、施設への支援体制を整え、経営会議で進行管理を行った。施設稼働率向上、収支改善に取り組んできたが、結果が出せず、大きな課題を残した。
- ④令和2年2月以降新型コロナウイルスの感染防止体制となり、2月25日から入所施設の原則面会禁止、職員等の健康管理体制強化、行事等の中止措置などを実施した。

## (3) 組織管理

- ①理事会や評議員会を開催し、適正な法人運営に努めた。また評議員選任・解任委員会を適宜開催した。
- ②財務規律の確立に向け、財務諸表に対する会計監査人による指導を通して監査体制の機能強化を図った。
- ③引き続き統括群を障害者群・高齢者群の2群に集約、効果的な施設経営の支援体制をめざし、情報共有、相互検証を進めた。また、非常時等、統括施設長などによる施設長への支援体制、連絡調整を強化した。
- ④施設長会やリーダー会が活発に活動し、組織活動の活性化、法人業務の担い手育成を推進した。
- ⑤コンプライアンス委員会を設置し、法人内の事業の法令遵守状況を検証し、組織活動の適正化を進めた。

## (4) 人事・労務管理

- ①年度後半、特定処遇改善手当支給に向け職員に対して説明会を実施、質問等に丁寧に対応し、理解を得て導入した。
- ②働き方改革に対応すべく、業務の省力化、合理化をめざし、職員の超過勤務の適正化、有給休暇の取得等を進めた。
- ③職員採用に関しては、看護師、保育士はもとより、介護・支援員等も採用困難な状況が継続している。年度当初は職員必要数から十数名不足の状態であった。年間を通じ、応募者に合わせ採用試験を随時実施（年間32回実施）したが、それでも入所施設は職員の不足を来す状態が続いた。その

ため人材派遣会社からの派遣や紹介により必要な人材確保することが常態化している。一方では外国人の雇用を積極的に進め、当年度1名を採用した。

- ④内定者に対しては内定者懇談会を開催するなど、人材確保に努めた。また、メンター制度の活用により人材定着に向け努力してきた。
- ⑤職員の健康・衛生管理の充実に向け、法人全体で安全衛生委員会を活性化させ、働きやすい職場作りを推進した。しかし、心身の不調に陥る職員もあり健康管理の強化が大きな課題となっている。

#### (5) 人材育成

- ①引き続き、利用者の人権尊重、サービスの質的向上に向け、職員教育、人材育成、サービス管理の研修に力を入れた。一方では、一般職員の監督職、管理職への昇任意欲に課題があり、解決に向け法人全体で対策に取り組んだ。
- ②新規採用職員の定着向上に向け、メンター制度を継続、新任初期の支援体制を強化した。
- ③職員教育の一環としてサービス向上委員会が中心になって、職員の接遇チェックシートにより、年に2回のセルフチェックを行った。

#### (6) 地域交流事業

- ①地域交流事業は、10月に「しなふく紅葉フェスタ」を本部施設で開催し、地域住民との交流を進めた。
- ②3月のボランティアの集いは新型コロナウイルスの感染防止のため中止した。

### 3. 会議

定款及び管理規程に基づき、下記の会議を行った。

- ① 理事会、評議員会、監事監査等
  - 5月15日 会計監査人の会計監査
  - 5月24日 監事監査 30年度事業報告・決算状況確認
  - 6月 4日 理事会 30年度事業報告、決算、定時評議員会の招集等
  - 6月21日 定時評議員会 計算書類、財産目録の承認、理事の選任
  - 6月21日 理事会 理事長、常務理事の選任
  - 9月20日 理事会 補正予算、臨時評議員会招集事項等
  - 11月15日 臨時評議員会 法人定款改定等
  - 11月15日 理事会 評議員会招集事項、法人定款改定・規定改定等
  - 11月15日 監事監査 平成31年度中間事務監事監査
  - 12月 6日 評議員選任、解任委員会
  - 1月17日 理事会 中間監事監査報告、補正予算等
  - 1月17日 評議員会 中間監事監査報告
  - 3月24日 理事会 令和2年度事業計画、当初予算、人事案件等

## ② 経営会議

月1回、理事長が開催。経営方針を検討する場とし、毎回前月迄の稼働率・事業進行管理、経営分析等を行った。また、必要に応じて臨時の会議を開催した。

## ③ 施設長会

月2回開催。経営会議決定事項の周知、全体調整、情報の共有化を進めた。

## ④ 防火管理委員会

法人の消防計画に基づき開催した。

## ⑤ 安全衛生委員会

法令に則り、法人全体で月1回開催し、職場の安全衛生向上を進めた。

## ⑥ 虐待防止委員会

法人全体で月に1回開催し、重層的に各事業所も適宜実施した。

## ⑦ コンプライアンス委員会を新設し、当年度5回実施した。法人内の事業の法令遵守状況の検証、組織活動の適正化を進めた。

## ⑧ リーダー会

法人全施設のリーダーが、全体調整、情報の共有化を目的に月一回開催した。法人の課題解決に向けた具体的な取り組みを進めた。

## 4. 研修

### ① 研修委員会により、研修内容を、さらなる職員の定着化、モチベーションの向上、人権意識の定着が進むように検討した。

### ④ 外部の人権研修等に積極的に参加し、その内容を事業所全体に周知させた。

### ⑤ しなふく向上発表会・研修報告会を実施、法人内の情報共有を進めた。

### ⑥ 2月、品川福祉保健従事者実践・研究発表会（主催・品川介護福祉専門学校）において中延特別養護老人ホームの発表演題「選択できる生活を」（夜間入浴からはじまる自己決定）が最優秀賞となった。

## 5. 防災

法人防災計画に沿って防災訓練・教育及び防災設備点検など実施した。法令に基づき法人内各事業所において、毎月、避難、消火等の防災訓練を実施し、年に1回以上震災想定訓練を実施している。

## 6. 広報

法人広報紙「しなふくニュース」を地域、利用者に発行し、職員向けに職員報を発行した。

## 7. 給食

利用者サービスの根幹をなす食事の質的向上を目指し、各拠点で給食会議を開催した。

# 令和元年度 法人研修事業報告

## 1. 総括

社会全体が人材不足の状態の中、介護・福祉業界はさらに職員採用が困難な状況が顕著になっている。当法人においても人材確保、育成はもとより、「定着」が大きな経営課題となっている。事業の継続性を担保するためにも次代を担う人材育成、施設サービスの質的向上を目指し、各職員への階層別研修、新任時の研修を強化した。法人全体で人権擁護研修を実施、その他新任、階層別研修においても利用者の権利擁護、サービス検証の内容を盛り込んできた。また、同様の外部研修にも積極的に参加し、参加者がその内容を他者に周知することを確実に行ってきた。非常勤職員への研修については、より実効性が高い内容とした。研修委員会を開催し、研修の方針、内容の検討を進めた。

※中途採用職員研修は、「新任職員研修」にて実施。

### (1) 全体研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
しなふく向上 発表会・研修 報告会	各施設が取り組んでいるサービス向上の内容を発表し合い、相互に研鑽し合う。 また、法人を代表して外部研修を受講した職員が、内容を他の職員に共有する。	全職員	R2年 2月 7日(金)	178名

### (2) 階層別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
新任職員研修	法人職員としての意識、誇りを醸成するとともに、基本的な知識や技術の習得を目指した。仕事での目標構築を側面援助する	平成31年度採用職員および平成30年度中途採用の職員	H31年3月22(金) ～ H31年3月28日(木)	17名
新任職員現況 報告会及び 新任職員研修	各事業所で職務の習得が進み、仕事を任されるようになってくる時期に同期職員と現状を確認する機会とする。 試用期間終了の時期に行う。	平成31年度採用職員および平成30年度中途採用の職員	R1年 6月28日(金) R1年 9月27日(金)	17名 17名
初級職員研修	2・3年目を迎え後輩指導が出来るような話術、行動の意識付け、さらに法人理念を再確認する。	採用2, 3年目の職員	R1年 7月26日(金)	19名
中級職員研修	中堅職員としての組織での役割を明確に意識づけ、資質の向上を図る。	採用後5, 6年目の職員	R1年11月 6日(水)	13名
特別上級 職員研修	10年間の経験を振り返り、将来に向け、自己変革の契機とする。 研修企画を通じて、関係調整等全部をプロデュースする。	採用後10年目の職員	R1年 9月13日(金)	5名
リーダー候補 者及び 初級リーダー 研修	リーダー候補者および初級リーダーとしての役割、意識を醸成し、現場を預かる役割としての意識付けと育成を図る。	リーダー候補者 及び リーダー昇任3年 以内の者	①R1年11月20日(金) ②R1年12月 6日(金)	①14名 ②10名
管理職養成研 修	管理監督者候補としての役割、意識を醸成し、育成を図る。	全リーダー職	R2年 2月21日(金)	18名
リーダー研修	自信をもって部下の育成や市道ができるよう、外部講師を招聘して実施する。	全リーダー職	R2年 1月14日(火)	28名

中途採用職員研修	年度中途の職員を対象に組織体制及び研修体制を学習し、法人の理念及び介護技術等の基礎的な内容の習得を目標とする。	令和元年度中途採用の職員		
非常勤職員研修	品川総合福祉センターの職員の一員として法人の理念を理解し、チームスタッフとしてそれを意識した行動ができるようにする。	非常勤職員	R1年10月11日(金)	10名
管理者研修	品川総合福祉センターの管理者として、テーマに沿った内容を習得、共有することを目的とする。	全管理職	R1年 6月 7日(金)	10名

### (3) 技能研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
メンター研修	新規職員の相談役としてのメンターの役割や傾聴技術を学び、新入りが職場に馴染み、独り立ちできるように支援する。	メンター担当等	R1年 5月10日(金)	17名 (他管理者2名)
救急法研修	対象者の支援や介護を行う場面において、緊急時に必要な動きをとれるよう学ぶことを目的とする	各事業所 指名職員	①R1年 7月18日(木) ②R1年 9月12日(木) ③R1年11月14日(木) ④R2年 1月16日(木)	① 8名 ② 20名 ③ 24名 ④ 20名
特別研修	①感情コントロール研修 ②パワーハラスメント研修 職員より「学び」の要望として上がった内容を実施する。	全職員	①R1年 7月24日(水) ②R1年 9月 6日(金)	① 29人 ② 24名

※介護技術研修は各事業所ごとに現認研修として行い、外部職員オープン参加とした。

### (4) 目的別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
人権擁護研修	法人として全体共有が必要な「権利擁護と人権」の演題で講演。人権を理解し、虐待のない職場環境を構築する。	全職員	R1年11月29日(金)	219名
福祉施設の看護師研修	健康支援室を中心に、各事業所看護師が専門職としての意見交換や情報共有をもとに業務の統一化を進める。	本部健康支援室 専任看護師及び 各事業所看護師	R1年12月12日(木) ※定期連絡会にて 研修報告を実施	9名

### (5) 自己啓発・資格取得支援

- ・職員の資格取得を推進した。
- ・職員のスキルアップに向け専門機関、行政等が主催する研修に参加を推進した。

### (6) その他

- ・関係機関の人権研修に精力的に参加し、参加者は必ず職場へ内容を周知した。
- ・各事業所の現任研修において利用者の権利擁護の検証を必須とした。
- ・介護プロフェッショナルのキャリア段位制度については継続検討とした。
- ・研修受講記録の作製は継続検討とした。

# 令和元年度 安全衛生委員会事業報告

1. 実施場所：法人本部会議室、月1回（第2月曜日）、年12回実施
2. 出席者：衛生管理者および各施設衛生推進者
3. 内容
  - 4月：安全衛生委員会の役割の確認、健康診断計画
  - 5月：健康診断、インフルエンザ予防接種
  - 6月：健康診断、腰痛健診、梅雨時期の健康、熱中症対策
  - 7月：腰痛健診、熱中症・食中毒対策、健診事後対応
  - 8月：腰痛健診、インフルエンザ予防接種、熱中症対策
  - 9月：インフルエンザ予防接種、夜勤者健康診断、腰痛健診、若年者子宮がん検査
  - 10月：インフルエンザ予防接種、感染症予防
  - 11月：感染症予防、インフルエンザ予防接種、夜勤者健康診断、若年者子宮がん検査
  - 12月：インフルエンザ予防接種、夜勤者健康診断、腰痛健診、結核健康診断
  - 1月：インフルエンザ感染症、結核健康診断、腰痛健診、新型コロナウイルス感染症
  - 2月：新型コロナウイルス感染症、結核健康診断、腰痛健診
  - 3月：新型コロナウイルス感染症、結核健康診断、感染症マニュアル

## 4. 他議題

### (1) 法人内健康管理関係（実施調整、情報提供等）

年度初めに安全衛生委員会・衛生管理者・衛生推進者の役割を確認、例年実施する健康診断等についての事前・事後対応の説明と実施調整、健康情報等を提供している。

インフルエンザ予防接種は、夜勤者健康診断と同時に巡回実施していたが、会場での待機時間が長く、改善に向け別設定、実施医療機関の変更により費用削減も図った。

### (2) 感染症予防について

各施設感染症罹数を報告、および感染症好発期間は全国・東京都内の最新情報を提供、法人内での情報共有と注意喚起を行っている。

看護職連絡会との連携により、手洗いの徹底（各施設でブラックライトを使用し、手洗い指導）を行った。吐物処理は、施設毎に処理方法が異なり、今後法人全体での統一化を図り、感染防止に向け看護職連絡会で検討を進め、安全衛生委員会へ随時報告している。

厚生労働省『高齢者施設における感染症マニュアル改正版』を高齡施設・障害施設で利用出来るよう修正した。（令和2年3月作成）

### (3) 安全職場を目指して

各施設のヒヤリハット報告、労災発生状況を報告している。労災は介助時の転倒、利用者からの他害等により13件発生した。

身体に負担が多い重介助の抽出、抱えない介護への移行を検討し、施設での工夫等について報告、腰痛予防のため始業前の腰痛体操の徹底を再度確認した。

#### (4) より良い職場づくりの実践

職場のコミュニケーション向上、ストレスをためない職場作りを促進している。職場のコミュニケーション向上では、健康支援室での新人・中途採用者に対し個人面談を実施し、必要時、職場の上司へ情報提供、指導等に役立てる。施設独自にスマイルキャンペーン等を実施し、コミュニケーション向上を図っている。

#### (5) 法人内各安全衛生委員会より

中延複合施設、八潮南複合施設、福祉工場しながわは職員が50人以上のため、月1回安全衛生委員会を開催し、全体会で内容を報告している。

### 5. その他

安全職場・より良い職場づくりに向けPDCAサイクルにより、安全で心身ともに健康で業務に携われるよう委員会を進め、更に安全衛生委員会の機能強化を目指す。

\*ストレスチェック：386名実施、内1名が北品川クリニックで高ストレス者面談を実施

\*新人、中途採用職員面談を年2回個別に実施、福祉工場しながわ従業員相談を2ヶ月毎に実施した。新人および中途採用職員面談の結果は、職場環境改善の参考になるよう安全衛生委員会で報告した。

\*産業医相談は、本部・八潮南複合施設・中延複合施設の3カ所で月1回の相談機会を設定し、職員本人や上司からの依頼により、また必要時は産業医からの指示で相談を実施した。

\*健康だよりは、年6回定期発行し、職員の健康意識の向上を目指した。

\*健康支援室は職員が心身ともに健康で働けるように相談支援等を実施、法人職員の健康増進に向けた側面支援機能として定着してきた。

# 令和元年度 地域福祉課事業報告

## 1. 総括

令和元年度の地域福祉課は、地域福祉力向上を目指し、地域交流活動・福祉教育活動・広報活動を実施した。法人の理念である「地域とともに」を実践すべく、地域交流事業「しなふく紅葉フェスタ」を開催した。ステージでは、参加型のゲームを行い施設利用者、地域住民がともに楽しみ相互理解を深めることが出来た。各種地域行事への参加や、「こどものつどい」では、企業ボランティアの協力で好評を博した。大井三丁目高齢者憩いの場では、多世代交流が集う「ひなたぼっこ」の企画運営を行った。また、法人後援会の円滑な活動のために事務局としての役割を担った。

## 2. 事業内容

### (1) 各種教室

施設利用者を含めたコミュニティ作りとして、定期的に教室・サークル活動を実施した。

#### 〈各種教室実績〉

事業名		実施回数	講師（ボランティア）	延人数	登録者数	実施曜日・時間
ルクルサ	絵画教室	9	伊藤喜代美	102	15	第三日曜日 14:00～16:00
	生花教室	9	山田繁子 <small>(休職)</small>	85	12	第二日曜日 13:00～15:00
	手話サークル 手話舞踊	9	森 みつえ	171	29	第一日曜日 13:00～15:00
小 計		27		358	56	
スライコ 会	コーラス会	16	中島はるみ	215	24	隔週土曜日 13:45～15:00
	八潮音楽祭	1	中島はるみ	5	5	令和元年12月14日
小 計		17		220	29	
令和元年度総計		44		578	85	
平成30年度総計		50		681	76	

(生花教室 10月台風の為休止) (8月は夏休みの為、休止)  
3月は、新型コロナウイルス感染予防のため、全て休止

### (2) 地域交流事業

共生社会の実現を目指し、地域社会の一員であると利用者が地域と交流する場として、行事を実施した。

① 《しなふく紅葉フェスタ》

日 時 10月27日(日) 午前10時30分～午後2時30分

場 所 品川総合福祉センター1階ロビー(模擬店・作品展示)

駐車場(ステージ・模擬店)

かもめ園庭(ガーデンカフェ)

内 容 コンサート(利用者、ボランティア参加、)施設紹介パネル展示、センター利用者の手作り作品展示及び販売、模擬店

参加者数 約870名

《地域行事参加》

地域において開催された行事に、地域交流の一環として利用者とともに参加し、実行委員としても地域貢献に努めた。

5月「八潮ファミリー運動会」

7月「八潮連合自治会主催：八潮まつり」

8月「八潮北地区避難所まつり」

9月「品川区社会福祉協議会主催：ふくしまつり」

12月「品川区障害者週間：記念のつどい」

(3) 《地域開放事業》

地域開放事業として、認知症の方とその家族、地域住民が集い、情報交換や相談支援を行い、相互に支えあう地域生活を推進することを目的に、認知症カフェ「オレンジカフェしなふく」を開催した。

《オレンジカフェしなふく》

日 時 毎月第三水曜日 午後2時～午後3時30分

場 所 品川総合福祉センター 1階 喫茶しなっぺ

内 容 法人内の各在宅介護支援センターからケアマネジャーが相談支援やお話し相手として参加した。

参加人数 年間 45名(本人11名、家族3名、専門職2名、地域住民29名)

(4) 福祉啓発・教育

① 《こどものつどい》

目 的 テーマ 「手作り工作」「昔遊び」

地域の子ども達が施設利用者との交流を持ちながら、施設の理解や高齢者・障害者への思いやりと優しい気持ちのあるかかわりを持つ機会とした。

日 時 令和元年7月27日(土) 午前10時～午後12時

講 師 品川あそびの会 代表 大上尚之 氏

内 容 工作(ストロー浮き玉、テープの魚、ブーブーゼラ、クルクル遊び)

遊びコーナー(けん玉、いろんなコマ回し、輪ゴム鉄砲)を体験した後、アイスクャンディー、わた飴、ポップコーン、ヨーヨー、射的を利用者とともに楽しみ、交流を図った。

参加者数 保護者含め46名 利用者30名

(スタッフ) しながわ役立ち隊1名、品川区職員ボランティア1名、  
プルデンシャル生命保険㈱社員ボランティア24名、  
小学生1名、地域福祉課2名

② 《青少年体験ボランティア2019》

品川ボランティアセンターの事業である青少年のボランティア活動の受け入れに協力し、ボランティア活動を体験する事で、様々な人々との出会いの中から自らの生き方や共に生きていくことを考える機会とした。

日 時 令和元年8月1日～9月30日

施 設 サンかもめ、かもめ園知的、八潮南特養、中延在宅s c、さつき、  
八潮在宅s c、プチレーブ、大井在宅s c、かえで荘

人 数 16名(延べ人数)

③ 《ボランティアのつどい》

当法人で活動しているボランティアに感謝し、さらに充実したボランティア活動を推進するために開催にむけて準備をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止とした。

日 時 令和元年3月7日(土) 午前11時～午後1時30分(中止)

④ 《教育機関からのボランティア体験学習・見学の受け入れ》

\*教育機関からの福祉教育実践の場として、ボランティア体験学習の受け入れや学校と各施設との連絡調整等を行った。

・ 明晴学園中等部	8月20日～21日	職場体験	1名
・ 八潮学園9年	9月19日	福祉講座	72名
・ 玉川聖学院高等部1年	10月23日～24日	職場体験	6名
・ 大崎中学校9年	1月14日	福祉講座	105名

⑤ 《ボランティア講座の実施》

日時 令和元年2月6日(木)・7日(金)・8日(土) 3日間

目的 ボランティア講座を通し、福祉支援や地域ボランティアへ繋がるボランティアの育成を行う。傾聴の基本、対人援助の基礎を学び、相手の心の声を聴き「その人らしく生きていくことを支援する」ことを学ぶ

内容 「対人援助の基礎」

講師 汐見和恵氏

一般財団法人家族・保育デザイン研究所 所長

「傾聴について」

講師 古川繁子氏

クローバーの会 主宰(植草学園短期大学フェロー)

参加者数 27名

(5) 広報活動

〈しなふくニュース〉(年4回 各1, 800部発行 No.139～No.142)

品川総合福祉センターの広報紙「しなふくニュース」の編集、発行を行った。

〈ボラボーラ〉(随時 400部発行)

平成7年12月から、八潮団地向けミニ情報(B5サイズ1枚)として発行。

内容は、お知らせ、ボランティア募集等。

(6) 募金活動

赤い羽根共同募金 10月1日「街頭募金」 大井町駅・旗の台駅・青物横丁駅  
東日本大震災復興支援募金、しなふく紅葉フェスタ

(7) その他 〈器具・器材などの貸し出しサービス〉

地域行事・関係機関などに対して、地域交流の一環として協力。

綿あめ機、ポップコーン機、焼き鳥機、かき氷機、餅つきのセット、テント、椅子、長テーブル、音響装置、車椅子、他

### 3. 事務局活動

#### ①後援会事務局

- ・後援会役員との連絡調整
- ・幹事会、総会の開催
- ・会費、寄付金、募金箱などの会計処理
- ・後援会ニュース年2回発行
- ・その他必要な事務

#### ②連合家族会事務局

- ・連合家族会役員との連絡調整
- ・その他必要な事務

### 4. ボランティア

ボランティアの受け入れ窓口として、施設とボランティアとの連絡調整をした。

〈ボランティア活動実績〉

〔注〕 人数・延べ日数は、月の合計を12か月分集計したもの

3月は、新型コロナウイルス感染予防の為活動を縮小

施設	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数	人数	延べ人数
かえで荘	193	275	210	339	207	357
かもめ(身体)	71	101	72	113	107	173
かもめ(知的)	157	233	177	402	199	433
さつき	0	0	0	0	0	0
サンかもめ	46	80	58	108	60	135
八潮在宅サービスセンター	274	699	299	853	313	764
大井在宅サービスセンター	226	676	246	502	305	745
中延特養	366	676	409	660	414	705
中延在宅サービスセンター	273	703	285	731	255	708
福祉工場しながわ	0	0	0	0	0	0
心身障害者福祉会館	204	311	229	361	261	412
八潮南特養	34	304	25	264	26	225
大井三丁目高齢者憩いの場	181	259	165	183	279	331
地域福祉課	253	296	281	316	373	393
合計	2278	4613	2456	4832	2799	5381

# 令和元年度 かもめ園(知的障害部門)事業報告

## 1. 総括

利用者の退所者4名のうち病院でのご逝去が3名、長期に自宅に外泊した後、家族と話し合いの結果退所となった方が1名あった。新規入所は3名で、品川区の入所判定に基づき、緊急度の高い状況の方を受け入れた。

利用者の状況は、高齢化や障害の重度化が進み、日常生活での介護や医療的な対応が必要な状況が増加した。利用者の状態にあわせて1階、2階、2階北側の3フロアで構成し、職員配置も見直してそれぞれの利用者対応を充実させた。

日中の活動は、より個別活動を重視し、本人の希望により外出、旅行等楽しめる企画を実施した。

インフルエンザの罹患は5名あり、1名は入院直後に急逝された。ノロウイルス、その他の感染症は発生していない。3月中ごろより新型コロナウイルス対策として外出、通所、家族の面会等の自粛を行い、感染予防に努めた。館内で過ごすことによる利用者のストレス増加に対しては、活動の中でできる限り精神的な不安の解消や事故等の予防に努めている。

東京都福祉サービス第三者評価を実施し、サービスの向上に努めた。

対応の困難な短期入所のケースについても、会館支援センター等関係機関と連携してできる限り受け入れた。

業務用加湿空気清浄機を4台設置し、湿度管理及びウイルス等の除菌、消臭を行ない、環境整備を図った。

## 2. 利用者状況(令和2年3月31日現在)

### (1) 利用者状況 (単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	男性1名、女性2名	3名
退所者	男性2、女性1(逝去) 女性1名(家族意向)	4名

### (2) 障害区分 (単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	1	5	14	6	26
女性	0	0	2	6	7	10	25
合計	0	0	3	11	21	16	51

### (3) 年齢別 (単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	1	2	6	6	8	1	2	0	26
女性	1	2	1	10	4	5	1	1	25
合計	2	4	7	16	12	6	3	1	51

・平均年齢 男性55.7歳 女性60.4歳 全体58.0歳(平成30年度57.7歳)

(4) 稼働率

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
施設入所支援	92.7%	94.8%	93.3%
生活介護	81.8%	85.0%	81.7%

(5) 関係機関

(単位:人)

品川	大田	江東	葛飾	足立	北	台東	八王子
42	3	1	1	1	1	1	1

3. 支援経過

(1) 支援全般

個別支援計画に基づき、利用者個別の自立した生活を目指し支援した。特にもの作りなどの活動で個性を発揮していくことや、行事や外出、旅行など、生活の中での楽しみを拡大していくように支援した。また、さつきへの通所など、個人の力をより発揮できるよう支援を進めた。

職員 2 人～3 人の複数担当制とし、医務、給食等、多職種の連携を進めた。高齢化や身体状況の変化により通院や入院等、医療的な対応等も多く、健康管理とともに、日常のすごし方や活動について見直した

(2) 生活介護日中活動

①課題別活動(小グループ)

活動グループを見直し、リサイクル、運動、調理等のほか、創作活動(ものづくり)を行なった。季節に応じた装飾や壁掛け、花や自然の造形や立体的な作品を作成して行事などに飾り、参加した家族などから好評だった。

②課題別活動(個人)

各利用者の好みの活動(買い物・創作・喫茶・調理・ビデオ等)を設定し、職員とマンツーマンでかかわる時間とした。限られた時間であるが利用者にとって楽しみであり、社会生活を支援する重要な活動として継続している。

③全体活動

5月:バーベキュー、6月:お神輿作り、11月:餅つき等を実施。園庭等の屋外での活動により、たくさんの利用者が参加し、楽しむことができた。

④他サービスの利用

サンかもめ、第一しいのき学園(生活介護)、さつき(就労継続支援B型サービス)へ日中に通所した。通所先の各種行事等にも参加した。

参加人数

(単位:人)

	男性	女性
さつき	2	4
第一しいのき学園		1
サンかもめ	2	2
合計	4	7

(3) 施設入所支援

散歩や、理美容などの外出の他、季節に応じた生活行事やレクリエーション

などを企画実施した。食事形態、排泄の支援等について、加齢や状態の変化等に的確に対応できるよう、方法を検討し実施した。入浴は、生活リズムを整え健康の維持に配慮し、夜間入浴を継続して実施している。

(4) サークル活動 (単位:人)

	実施回数(年間)	参加人数(延)
コーラス	10回	250
生花	8回	64
茶道	9回	108

(5) 行事 (単位:人)

行事名	実施日	内容	参加人数
お花見	4/1	新年度顔合わせ。観桜	49
個別旅行	月1回~2回	一泊・日帰り旅行	50
納涼会	7/14	流しそうめん、他	50
バイキング食	年4回	希望献立に因る会食	50
紅葉フェスタ	10/27	模擬店・生け花	50
遠足	11/6	みかん狩り	50
八潮音楽祭	12/14	コーラス	5
クリスマス食事会	12/22	家族・ボランティア	120
初窯	1/19	新年初手前・会食	12
送別会	3/22	年度末納会	48

(6) 健康管理

定期健康診断、インフルエンザ予防接種等を実施し、健康の維持と疾病の早期発見に努めた。インフルエンザの罹患は5名あり、1名は入院直後に急逝された。施設内で感染の拡大はなかった。在宅酸素1名、胃ろう2名の医療的な対応について、家族、病院等と連絡を取り、可能なかぎり対応した。利用者の状態の変化について内科医、精神科医と看護師、支援員が連携して状況を把握、相談や家族への説明等も丁寧に行なった。3月以降、新型コロナウイルスの対策として、面会、外出等とともに通院についても自粛し、感染予防を徹底した。

通院・入院・嘱託医受診。 (単位:人)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	31	24	23	16	13	19	30	21	19	22	14	21	253
入院	5	4	2	0	2	2	1	4	5	3	1	0	29
受診	22	4	4	9	14	31	17	14	7	5	13	9	149

(7) 給食

希望献立や、状態に応じた形態で食事提供した。毎週水曜日に選択食を実施したほか、バイキング食(年4回)は、「台湾料理」「ハロウィン」「和食」「肉料理」のテーマで実施。普段食べることがない食材などもあり、好評だった。疾病・年齢・身体機能に対応した特別食を提供した。 (単位:人)

きざみ食	粗きざみ食	ペースト食	制限食 1400cal	制限食 1600cal
10	12	2	3	7

(8) サービス点検調整委員会

委員による利用者との面談を開催、日々利用者の抱えている様々な思いを聴取し、委員と施設との連携を図りながらサービス向上に取り組んだ。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

平成 31 年 8 月・令和 1 年 1 月に開催。家族対応に関わる案件を報告した。

(11) サービス向上委員会

「利用者の人権、生活を守るためのチェックリスト」を定期的実施して、自己評価を行った。同時に業務の振り返りを行ない、意見交換をした。

(12) 虐待防止委員会

定期的に虐待防止委員会を開催し、利用者の人権を重視し適切なコミュニケーションを図り、支援の向上を目指した。

4. 研修・会議

(1) 研修 法人研修計画に基づき、人権研修その他研修に参加した。

(2) 会議 職員会議、ケース会議、生活会議、給食会議、役職会議を開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

4 月、12 月の事業説明のほか、支援計画に沿って個別面談を行なった。クリスマス会には家族も参加し、ものづくり班の作品等を見もらった。

(2) 地域交流

地域のお祭りや行事に参加した。近隣からの資源回収、リサイクル等を行ない、地域に貢献した。

(3) ボランティアの協力

洗濯たたみ、サークル活動指導、コーヒー提供、傾聴、調理活動補助等、長く継続的にかかわっていただいている。利用者の状況や気づいた点などを聞き、利用者支援に深く協力していただいた。

6. 短期入所事業(定員 3 名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数		
男性	19	19	21	24	22	19	14	16	19	12	15	13	213		
女性	12	13	22	8	9	7	9	8	9	7	9	7	120		
児童	2	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	3	27		
計	33	35	45	34	34	28	25	26	30	21	26	23	360		
利用日数	138	167	160	148	166	170	112	159	162	131	135	129	1,777		
年間平均稼働率	令和元年度					161.8%	年間平均稼働率					平成 30 年度			161.3%

7. 防災

法人の防災計画に従い防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を実施した。

品川区防災課より、福祉避難所の備蓄物資を預り、保管している。

8. 環境整備・備品購入 業務用空気清浄機ピュアウォッシャー 4 台

# 令和元年度 かもめ園（身体障害部門）事業報告

## 1. 総括

利用者の重度高齢化に伴い、地下の浴室に寝台型浴槽の設置をした。また、利用者の身体状況の変化に伴いリクライニング式ベッドと各居室にLED照明を整備し、利用者には快適な生活と職員には安全な支援が出来るよう改善した。

感染症に関しては、インフルエンザやノロウイルスの罹患は無かった。また、新型コロナウイルスの感染予防対策として、利用者の健康管理の強化と外出・外泊・面会について制限を設け、利用者や家族にも協力を要請した。

生活介護の日中活動では、6階の生産活動の作業場に、昨年3階に設置した蒸気式加湿器を設置し、環境を改善した。また、昨今のマスク不足に伴い、生産活動で手作りマスクを作成し順調な売り上げとなり地域ニーズに応えられ、利用者の生産活動意欲が向上した。

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービスの向上に努めた。

短期入所は、支援センターの依頼に対し緊急利用に柔軟的な受け入れを実施した。また、他区からの利用も引き続きあり、ニーズに応えた。

## 2. 利用者状況（令和2年3月31日現在）

### (1) 入退所状況（単位人）

	性別及び事由				合計
	男性	女性	事由	人数	
入所者	1名	1名	在宅より入所		3名
退所者	1名	1名	療養型病院		2名
	1名	死亡			

### (2) 障害区分 (単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	1	7	5	3	9	25
女性	0	0	2	8	6	6	22
合計	0	1	9	13	9	15	47

### (3) 年齢別 (単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	1	0	6	6	7	4	1	25
女性	0	2	7	4	4	4	1	22
合計	1	2	13	10	11	8	2	47

・平均年齢 男性 58.4歳 女性 57.2歳 全体 57.8歳（平成30年度 58.5歳）

### (4) 稼働率

令和・平成	年度	元年度	30年度	29年度
利用率(%)	施設入所	92.7	94.8	93.3
	生活介護	81.8	85.0	81.7

## (5) 関係機関

(単位:人)

品川	中野	足立	江戸川	江東	東大和	町田	合計
41	1	1	1	1	1	1	47

## 3. 支援経過

## (1) 支援全般

利用者一人ひとりの個別ニーズを汲み取るため個別面談を年 2 回実施し、個別支援計画に反映させた。個別支援計画の実行については、個別支援時間の活用や外出支援等を工夫し、利用者本人のニーズに応えられるようにした。

## (2) 生活介護日中活動

## ①生産活動

能力、適性に応じて 2 つのグループに編成し、工賃を支給した。マスク不足の状況により、手作りマスクの作成を手掛けた。

参加人数

(単位:人)

	軽作業	七宝・創作	合計
男性	14	1	15
女性	6	6	12
合計	20	7	27

## ②療護活動

レクリエーションの他、リハビリにヨガを取り入れた運動を、講師の指導のもと月一回実施し、利用者に好評を得た。

参加人数

(単位:延べ人数)

	ヨガビリー	音楽セラピー
男性	61	73
女性	76	98
合計	137	171

## ③他サービスの利用

同一法人内の他施設が実施するサービスを利用した。

参加人数

(単位:人)

	男性	女性	合計
就労継続支援 B 型さつき	3	1	4
サンかもめ	0	1	1

## (3) 施設入所支援

年中行事や余暇支援として各サークル活動を行い、潤いのある生活を目指し、支援した。園外レクリエーションでは少人数での旅行を企画し、個々のニーズに合わせた外出支援を実施した。単独外出が難しくなった利用者のニーズに応えるべくお出かけ便を継続した。

## (4) サークル活動

(単位:人)

	実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)
書道	6	21	勉強会	11	191	カラオケ	9	161
料理	9	157	言語	10	160	お出かけ便	28	54
園芸	12	65	パソコン	0	0			

(5) 行事

行事名	実施日	内容	利用者参加人数
お花見	4/2.4.6	公園にて桜鑑賞と食事	36名
しょうぶ湯	5/8	健康と長寿を願い入浴した	全員
スポーツ大会①	5/26	駒沢公園	4名
スポーツ大会②	6/1	駒沢公園	6名
日帰り旅行	随時	外出支援	19名
一泊旅行	随時	外出支援	24名
七夕	7/7	七夕飾り他	26名
納涼会	8/13・9/5	食堂・花火(駐車場)	36名・30名
ふれあい寄席	10/18	落語鑑賞	6名
紅葉フェスタ	10/27	作品展示・模擬店	40名
クリスマス懇親会	12/8	会食(家族・ボランティア招待)	38名
柚子湯	12/20	風邪を引かずに冬を越せるようお願い入浴した	全員
新年会	1/6	新年顔合わせ	40名
初詣外出	1月随時	池上本門寺	23名
節分	2/2	豆まき	25名

(6) 健康管理

嘱託医による受診、歯科往診等を定期的に行った。定期健康診断を実施し、インフルエンザ予防接種は43名に実施した。体調変化による通院件数があった。インフルエンザや胃腸炎症状の罹患者は0名であった。精神疾患の利用者の情緒不安定があり、医療機関と連携し入院加療を行う事があった。

通院・入院・嘱託医受診状況(単位人)

日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	26	25	12	33	26	21	21	20	15	11	11	8	229
入院	3	1	1	1	1	3	1	1	1	1	2	1	17
受診	7	14	12	6	13	9	6	10	7	5	7	4	100

(7) 給食

嚥下困難な方へなめらか食、ペースト食、個別対応食も提供した。月一回給食会議を実施し、行事食の一つとして年3回のバイキング食事会を企画した。

特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食) (単位:人)

減塩食	制限食 1300Kcal	制限食 1400 Kcal	制限食 1600 Kcal	
9	1	1	4	
キザミ食	なめらか食	粗キザミ食	ペースト食	個別対応食
6	1	16	3	4

(8) サービス点検調整委員会

毎月1回、希望者を中心に委員との面談を実施し、一人ひとりの状況確認とより良い支援のあり方について助言を得た。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

平成31年8月、令和1年1月に開催し、入院時の関わり方の案件を出した。

(11) サービス向上委員会

「障害の重度化・高齢化対策」「リスク管理」「医療的ケアと楽しい食事」「虐待予防」をテーマとし、サービスの向上と課題解決に取り組んだ。

(12) 虐待防止委員会

毎月一回職員会議の前半に実施。利用者支援状況の確認を行ない、職員個々の人権意識を高めた。

4. 研修・会議

(1) 研修

外部研修として東京都、全国社会福祉協議会、品川区社会福祉協議会等の主催の研修に参加した。

(2) 会議

職員会議、ケース会議、役職会議、給食会議、生活会議、生産活動会議を開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

事業説明会を6月に開催した。事業内容を説明し、家族に向けて提供している食事の試食会を実施した。また、12月の行事前に家族の集いを開催し、施設からの情報発信を積極的に行った。家族にも行事参加を促し交流を深めた。また、利用者の健康管理や生活面に関し随時連絡や手紙を発送し、情報共有を進めた。

(2) 地域交流

区内各イベントで生産活動の作品を販売した。区内の大崎中学校に職員を派遣し、福祉教育講座を実施した。

(3) ボランティアの協力

サークル活動、理髪、外出支援等多くの支援でご協力をいただいた。

6. 短期入所事業(定員2名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	4	5	6	5	6	6	7	6	6	4	6	7	68
女性	8	6	8	6	7	9	9	9	6	7	5	7	87
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12	11	14	11	13	15	16	15	12	11	11	14	155
利用日数	69	65	73	72	78	114	130	110	90	85	80	64	1,030
年間平均稼働率	令和元年度 140.7%					年間平均稼働率 30年度 145.7%							

7. 防災

法人本部の防災計画に従い、防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を行った。年度末に3階の蒸気式加湿器の蒸気が熱感知器に反応し、自動火災報知機が発報する事があった。

8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	寝台型浴槽・リクライニング式ベッド・LED照明
-----------	-------------------------

## 令和元年度 サンかもめ事業報告

### 1. 総括

利用者の高齢化、障害の重度化への対応として、今年度は、サービス向上委員会で日課、プログラムの見直しを行った。スムーズな日課の流れ、利用者の分散1人で過ごせる居場所づくり等を意識し、環境整備に取り組んだ。

また、ご家族との関係作りでは、日常の対応の他、広報紙や活動報告に写真を多用する等、ご家族に施設サービスの様子が的確に伝わる内容を工夫した。

高齢その他の疾病が原因で退所者や長期欠席者が多く、新規利用の働きかけを進めたが、利用には結びつかず稼働率が低迷し、大幅な収入減となった。

### 2. 利用者状況・稼働率(定員30人) 《令和2年3月31日現在》

#### (1) 年齢構成 (人)

	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～20代	5	3	5	6	6	7
30代	8	9	7	6	6	5
40代	2	0	2	1	2	1
50代	0	1	0	1	0	2
60～70代	3	2	4	2	4	1
平均	38.1歳		38.3歳		37.7歳	

#### (2) 障害区分 (人)

	令和元年度					
	男性	女性		男性	女性	
区分1			区分4	9	3	
区分2		1	区分5	4	3	
区分3	1	3	区分6	4	5	
			合計	18	15	

#### (3) 在所期間状況 (人)

	1年未満	1～2年	2～5年	5年以上	10年以上
利用者数	1	5	2	8	17

#### (4) 稼働率(年間平均)

年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
稼働率(%)	86.4	95.0	94.0

### 3. 支援経過

個別支援計画に沿い、音楽、リハビリテーション、手芸、紙漉き、散歩などの日中活動や外出活動を通して、個々の自己実現が可能となるよう支援を心がけた。

また、リサイクル活動や作品展出品等、利用者と地域をつなぐ活動に力を入れた。

(1) 日中活動による収益（円）＊令和2年3月31日現在

作業	資源回収	ビーズ作品	その他	合計
収入	15,669	650	0	16,319

(2) レクリエーション・行事

	内容	回数
外出活動	東京湾クルーズ・千葉苺狩り	8回
地域参加行事	ふくしま祭り (9/8)	1回
レクリエーション	ダンス 調理 創作(アールブリュット) スポーツ大会 季節行事(七夕、かき氷、初春ドライブ、豆まき) クリスマス忘年会 年度納会	52回

(3) 健康管理

嘱託医による応診を毎月1回、健康診断を年1回実施、通所時バイタルチェック、体重測定を毎月1回、インフルエンザ予防接種を年1回実施した。

(4) 給食

誕生日リクエスト食(33回)、選択メニュー(12回)、バイキング食(2回)を実施した。また、必要に応じて、食形態の変更や高カロリー食、制限食、代替食、減塩食等の対応をした。

(5) 送迎サービス

30名が送迎サービスを利用した。(内6名が車椅子用リフトを使用)。

(6) 延長支援事業

利用者実数	年間実施日数	年間利用延べ時間	年間送迎利用数
11名	222日	769時間	421回

4. 会議・研修

支援・職員会議毎月2回、モニタリング会議(半年毎)、給食会議毎月1回を開催し、外部研修(強度行動障害支援者養成研修等)、虐待防止研修、法人階層別研修、法人人権擁護研修等に参加した。

5. 家族・地域支援(ボランティア・実習生受け入れ)

(1) 保護者会(年2回)、保護者参加行事(クリスマス忘年会)を実施。

(2) 福祉関係実習生5名、教職介護体験実習2名

定期ボラ(配膳補助など)5名を受け入れた。活動延べ日数94日

6. 防災

施設防災訓練(避難誘導等)12回(内地震想定6回、館内合同防災訓練2回)

7. 虐待防止への取り組み

虐待防止委員会や職員会議(現任研修等)の中で利用者支援についてフリートークする場を持ち、支援方法の振り返りや人権意識を高める機会を作った。

# 令和元年度 鮫洲なぎさの家事業報告

## 1. 総括

新規世話人の採用もあり、安定した生活支援を進める事が出来た。

利用者の家族も高齢となり、帰省が難しくなっている中、休日の過ごし方についても、支援の必要性・重要性が高くなっている。特に外食や外出、行事等への参加の促進、コミュニケーションや話題性の提供により、社会性が保たれる部分が大きかった。行事としては、近隣散策の外出が好評であった。

また、夏のバーベキューを通じて地域の方との交流も定着してきている。その他地域の防災訓練にも、区内全体での防災訓練にも参加した。

食事の提供は、宅配業者から食材料を購入して、メニューに従い決められた調理を実施し、提供も安定してきた。また、外食の実施により、少しずつ体重減少の効果が出て来ている面が見られる。健康管理を考え、カロリーや栄養価管理がより重要であり、最適な食事提供を今後も継続していく。

サテライトは利用者が他事業所へ移行したため、令和2年3月31日に閉鎖した。

## 2. 利用者状況（令和2年3月31日現在）

### (1) 年齢

年齢層	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	平均年齢
人数	0	0	2	3	1	0	47.0歳

### (2) 入所元 (人)

入所元	自宅	入所施設	他グループホーム	計
人数	4	0	2	6

### (3) 日中就労、通所先 (人)

通勤・通所先	就労継続A型	就労継続B型	生活介護
人数	1	4	1

### (4) 入退所

11月と3月、計2名退所。翌12月に1名入所。

## 3. 支援経過

### (1) 支援全般

世話人と利用者の関係作りや生活も安定してきており、出来る限り、自主性を尊重して、自己選択・自己決定に配慮した日課作りを進めた。

個々の問題に対しては、個別面談、全体ミーティングを実施した。利用者への対応としては、傾聴に努め、必要な助言を行った。

## (2) 食事

利用者の体重増加、栄養管理等を考慮して、民間業者の食材の宅配により食材料を購入、そのメニューに従って、現場での調理、提供を継続実施した。安価な食材費での提供と栄養管理的にも行き届いており、その効果は健康面で徐々に出て来ている。一方では多様な食事・嗜好に対しては、近隣の中華料理、回転すし、レストラン等で食事の機会を設けた。また、誕生日にケーキでお祝いした。これらにより、栄養面での健康管理と豊かな食事、気分転換を含めた食事という両面において有意義な食生活であったと考えている。

## (3) 生活・行事等

個々人の生活リズムを尊重した基本的な生活支援を行い、個人の生活を大切にしながら掃除や洗濯等の基本的な生活要素の自立支援及び余暇支援等を行った。

他、余暇活動として、カラオケ、散髪、ドライブを実施、また、お花見会、クリスマス会、初詣、浅草散策外出を実施した他、区内各法人のお祭り等にも参加した。

## (4) 健康管理

健康管理として、持病を抱えている利用者3名は定期通院に付添し、担当医に日常の経過を正確に伝え、治療を進めるとともに、服薬管理や健康管理への助言、支援を行ってきた。また、区民検診、インフルエンザ予防接種は全員実施した。

## 4. 会議・研修

東京都グループホーム研修会に参加。個別支援計画打合せを実施した。

## 5. 就労、通所支援

(1) 各通所施設等への職場訪問を行い、先方事業所との連絡を密に、通所、就労状況の把握と諸課題解決への調整、連携に努めた。

(2) 施設通所利用者には施設の保護者会や行事に世話人が出席し、連携を図ってきた。

## 6. 家族・地域との関わり

保護者会を1回実施した他、出席できない家庭には、「家庭訪問」や「個別面談」を実施、必要に応じて家族と連絡をとり、課題解決を図ってきた。

## 7. 安全管理

避難訓練（防災・震災）を年間12回実施した。

非常通報装置について、日本防災通信協会の指導を受けた。

区内一斉合同防災訓練に参加した。

# 令和元年度 さつき事業報告

## 1. 総括

令和元年度の作業は、軽作業では、昨年度から引き続き、ウェディング会社の砂袋入れは安定していたが、アロマポット洗浄は昨年度より落ち込んだ。また、全国各地の災害発生により物流が悪くなり、市場関係の売り上げが落ち込んだ。しかし、後半は着物の解体作業など新たな取り組みで持ち直した。

花ふきんは福祉ショップでの売り上げやバザー、個人注文で安定した売り上げとなっている他、都庁ショップの KURUMIRU 出店を継続している。（都内3店舗）安定した受注により、作業量の調整・工賃の確保に努めている。

クリーニングでは、法人のリネン、区立保育園等は順調で美容室タオルは、安定的に大量受注があり、作業量、収入共に増加した。また、新規で数社から外部委託を実施している。次年度も関係機関と情報を共有し、工賃向上に努めていく。

喫茶売店については、各メーカー価格上昇や冷凍食品の仕入れ先が少なくなってきたしており、売り上げは若干落ち込んだ。また、タバコの売り上げも落ちている。新たな喫茶メニューの展開、冷凍おにぎり等の商品開発やコーヒー機械の導入も行った。今後も目標工賃達成指導員を中心に試行錯誤しながら継続して行く。

利用状況では新規の利用が5名あり、若干の退所者はいたが、余暇支援にも力を入れた結果、月平均稼働率105.5%となった。

## 2. 利用者状況（令和2年3月31日現在 登録51名）

### （1）年齢構成（平均年齢 48.8歳）在籍期間状況（平均在籍 13.1年）

	10歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳以上
男	0	4	4	8	7	5
女	0	4	0	7	6	6

### （2）在籍期間状況（平均在籍 13.1年）

	0～2年	3年～	5年～	10年～	計
男	3	7	6	12	28
女	2	3	6	12	23

## 3. 支援全般

### （1）授産売り上げ、工賃実績

授産売り上げ

単位：円

作業班	令和元年度	平成30年度	平成29年度
軽作業	3,933,422	4,799,168	5,372,392
軽作業（清掃）	298,660	296,400	296,400
自主製品	1,689,525	1,234,023	1,213,011
喫茶・売店	21,768,178	23,273,780	22,973,404
クリーニング	32,469,852	30,213,683	29,766,222
合計	60,159,637	59,817,054	59,621,429

工賃実績

単位：円

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
軽作業・支給総額	4,808,136	4,130,157	4,721,842
軽作業・最高額	19,530	19,140	15,351
軽作業・月平均額	9,104	9,099	7,809
クリーニング・支給総額	11,884,313	11,692,715	9,523,998
クリーニング・最高額	40,524	40,963	35,910
クリーニング・月平均額	22,954	22,474	21,591

(2) 日課

時間	日課	時間	日課
8:30	利用者通所	13:00	作業開始
9:00	朝礼・体操	14:30	休憩（水分補給）
10:30	休憩（水分補給）	14:45	作業開始
10:45	作業開始	16:00	作業終了
12:00	昼食・休憩	17:00	掃除作業終了

(3) 支援活動（旅行、行事、生活活動）

【旅行】	(日帰り)		
	4/20	横浜方面	4名
	6/21	浅草方面	4名
	7/20	八景島	5名
	(宿泊)		
	6/7～8	静岡方面	4名
	10/4～5	静岡方面	5名
	11/15～16	草津方面	4名
	11/30～12/1	群馬方面	5名
	12/6～7	鬼怒川方面	
(生活活動)	9/21	ふくしま祭り	19名

(4) 健康管理

①定期健康診断は年1回実施、聴打診、尿検査の他、胸部X-P、血液一般、心電図等実施。

②嘱託医による健康相談を毎月1回実施（従事業所は第3火曜日）。

(5) 食事

月1回選択食を実施。

栄養給与表は次の通りである。（日本人の食事摂取基準 2015年版普通にて算出）

エネルギー	脂 質	タンパク質	カルシウム	鉄
439kcal	11.2g	17g	148mg	2.4mg
レチノール当量	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩
130 $\mu$ g	0.24mg	0.24mg	28mg	2.1g

(6) 就労支援その他 就労継続支援 A 型移行、一般就労等なし

#### 4. 会議、研修

##### (1) 会議

①職員会議を毎月実施、その他個別支援計画会議、アセスメント会議、現任研修、虐待防止委員会を実施した。

②サービス向上委員会を職員会議後に開催。

##### (2) 研修

日 程	内 容	職 員	主 催
6/6	合理的配慮について	1	東京都福祉保健局
7/3	高次脳機能障害者支援研究会	1	国立障害者リハビリセンター
9/2	福祉従事者人権研修	1	東京都福祉保健局
11/18,19	職業リハビリテーション研究・実践発表会	1	日本発達支援協会
12/17	就労支援基礎研修	1	障害者職業総合センター
2/3	スーパービジョン研修	1	東京都福祉保健局

#### 5. 実習生

実習生は介護福祉士、保育士の実習生を受け入れた。

大学等から青山学院短大 1 名、有明教育芸術短大 1 名、東京福祉大学 1 名、帝京大学 1 名、品川介護専門学校等 3 名の学生を受け入れた。

#### 6. 防災

主事業所はピッコロ・にじのひろば八潮と共同して防災訓練等を実施した。

従事業所は本部内の施設と共同で防災訓練等を実施した。

#### 7. 家族との関わり

保護者会を増やし、家族や、本人にお集まりいただき、施設運営内容の説明、連絡事項、相談支援等の中身、防災体制について情報提供や意見交換等を実施した。



# 令和元年度 福祉工場しながわ 事業報告

## 1. 総括

利用の関係では、5月に2名退所、12月に1名退所、1名入所されている。

清掃事業は35カ所公園清掃を請負のほか、臨時の清掃を請負った。清掃単価は引き続き単価交渉し、平米単価が微増となっている。

製パン事業は、新規外部販売を積極的に行っている。また仕入れ先を開拓し、コスト削減に努めている。

製陶部門では、受注は昨年度同程度であるが、年度内に型の変更及び単価を交渉し、次年度は単価増となった。引き続き環境整備・改善に努めている。

就労会計全体では、昨年度比で大幅な改善となっている。

事業所では、事業所内研修、東社協、福祉保健局研修等、職員学習会等の機会を通して障害者差別解消法、人権意識の向上に努めた。

## 2. 利用者状況（令和2年3月31日現在 単位：36人）

### (1) 年齢構成（平均年齢45.5歳）

	10歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	計
男	0	1	5	15	3	2	26
女	0	0	1	4	5	0	10

### (2) 在所期間状況（平均在職13.8年）

	0～2年	3年～	5年～	10年～	計
男	1	1	7	17	26
女	0	0	1	9	10

### (3) 障害区分別（愛の手帳）

	2度	3度	4度	計
男	0	10	16	26
女	0	6	4	10

### (4) 採用実績

新規採用人数	
男	女
1	0

### (5) 退職者等 3名

### (6) 実施機関：品川区34名、江東区1名 大田区1名

### (7) 賃金支払い実績（単位：円）

	支払い総額
令和元年度	55,006,861
平成30年度	58,233,892
平成29年度	58,754,256

令和元年10月1日、東京都の最低賃金は時給985円から1,013円に改定。

### 3. 支援・業務経過

#### (1) 支援全般

従業員 1 人ひとりに適した作業支援、作業環境の整備に心がけ、安定した作業が出来るように働きかけた。また従業員の精神面の支援として、家族等も含め面談を随時実施した。

#### (2) 日課、作業状況

##### ○第 1 業務(8:00～16:00)

	場 所	令和元年度	30 年度	29 年度
公園清掃	区内公園	35 公園 3991 回	35 公園 3933 回	35 公園 3699 回
	鮫洲公園	241 回	244 回	244 回
建物清掃	13 箇所	延 3254 回	延 3555 回	延 3504 回

##### ○第 2 業務 (7:00～19:00)

	回数	内 容
店舗開店日	283 日	通常営業 (パン製造・販売)
定例外部販売	192 日	小野学園、大井林町、八潮南 GH、学研城南職業センター、清泉女子大、ニコン他
出張販売・出店	48 回	福祉祭り、地域行事、法人行事、学園祭他

##### ○第 3 業務(8:00～16:00)

骨壺種類	令和元年度	30 年度	29 年度
7 号 (大人用)	6886	6590	6600
6 号～3 号	309	298	330

#### (3) 作業支援

社会人として従業員個々が考え、責任感を持ち仕事に取り組めるように働きかけ、また仕事に対して自信を持ち、社会的自立へつながるよう援助した。

#### (4) 行事等

7/19 納涼会 (29 名)・10/13.14 一泊旅行 (18 名)・12/20 忘年会 (33 名)

#### (5) 健康管理

健康診断 (法定) を実施、健診後のフォローも産業看護師と協力して相談、改善へと繋げている。

#### (6) 食事

昼食は信頼性の高い弁当業者と契約、適温で弁当を提供している。

\*利用者自治会の決議で変更。

### 4. 会議・研修・見学／体験

#### (1) 会議

種 類	回数	内 容
職員会議	12 回	各事業の運営状況の検証、改善検討、情報共有他
プチレーブ会議	12 回	運営状況全般の検証、改善検討、販売促進計画策定
個別支援計画会議及び評価会議	2 回	個別支援計画会議及び作業評価会議

(2) 研修

研修日	研修名	研修日	研修名
6/13.14	日本セルフセンター研究大会	9/2	社会福祉事業従事者人権研修
6/19	「事例から学び、実践に役立つ支援の考え方」	9/10	食品表示適正推進者講習会
6/27	安全運転管理者講習	11/14.15	キャリアパス対応生涯研修 過程・チームリーダー研修
6/28.29	関東社会就労センター協議会 研究大会 in 東京	12/4	関東社会就労センター協 議会研修会
8/1.2	てんかん基礎講座	1/30	食品の適正表示推進者フ ォローアップ講習会
8/19	ナイスハートバザール担当者研修会	1/30.31	製パン力 向上研修会
8/22.23	経営改善基礎研修	2/27.28	全国社会就労センター長 研修会

事業所内 研修	10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症の障害特性の理解と支援</li> <li>・障害者虐待の判断に当たってのポイント</li> <li>・虐待を防ぐために ・虐待について（事例）</li> <li>・虐待防止について（心理・認定外・経済）</li> </ul>
------------	-----	---

(3) 実習生（介護福祉、東社協）

介護福祉士実習生 2名

(4) 見学／体験（利用者）

品川特別支援学校・小学部 23名・中学部 20名

伊藤学園・中学生 1名 豊葉の杜学園・中学生 1名

港特別支援学校・高校生 1名

5. 家族・地域社会との関わり

(1) 家族会（年1回実施）

事業運営経過説明、最低賃金改定等説明を行った。

(2) 地域社会との関わり

近隣住民の方達への挨拶と清掃を実施している。

6. その他

(1) 防災

内 容	回数	内 容
火災想定訓練	5回	火災想定、避難誘導、危機意識の醸成
地震想定訓練	5回	地震想定、避難誘導、危機意識の醸成
風水害想定訓練	2回	備品確認、各所継走連絡訓練

(2) 売上状況

(円)

売上	第1業務 (清掃)	第2業務 (パン工房)	第3業務 (製陶)	合 計
令和元年度	65,732,642	27,595,599	37,392,674	130,720,915
平成30年度	62,366,304	28,941,117	35,173,700	126,481,121
平成29年度	59,567,698	32,296,749	34,484,694	126,349,141



# 令和元年度 品川区立心身障害者福祉会館事業報告

## 1. 総括

品川区立心身障害者福祉会館は、品川区区内における障害者福祉のセンター機能を担う事業所として、品川区障害者福祉課との連携を図り、①自立訓練センター②生活介護事業③障害者生活支援センター④地域活動支援センターの4つの機能を軸に、利用者の総合支援を行っている。本年度は、指定管理更新の1年目にあたり、以下のように事業を進めた。

自立訓練事業においては、訓練の目的・機能をさらに明確化して事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換を密にすることで、支援の連携体制の強化に努め、訓練の結果、就労につながった方も数名いた。送迎サービスを開始するためにリフト車両を1台購入した。また、訪問型訓練も開始し、サービスの充実を図った。

生活介護事業においては、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援を継続し、また、生産活動のプログラムを継続した。障害の重度化への対応の取り組みとして、医療的ケアの勉強会や痰吸引ができる職員の育成を進め、さらに、職員配置を増員し、支援の充実を図った。また、重度障害者支援のため、職員が研修に参加しサービス向上への準備を行った。今年度より東京都の補助金「重症心身障害者通所事業」を取得し、大幅に収入が上がった。

障害者生活支援センターにおいては、地域拠点相談支援センターとして、緊急時に24時間相談できる体制を整えた。また、10月より障害児相談を開始した。

地域活動支援センターにおいては、移動支援従業者養成研修の開講に向けて東京都の事業者指定申請等の準備を進めた。

## 2. 支援経過

### (1) 苦情解決・サービス向上

- ① 法人の苦情解決第三者委員会の規程に従い苦情、要望対応を行った。
- ② 意見箱の設置、委員会のポスター掲示などをおこなった。
- ③ 品川区サービス向上研究会の活動に準じ、セルフチェックを行った。
- ④ 法人全体で毎月のセルフチェックを継続した。また、職員に対し「人権擁護に関する職員アンケート調査」を実施した。

### (2) 健康管理

- ① 必要な利用者を対象に毎朝バイタルチェックを実施した。
- ② 月1回体重測定と血圧測定を実施した。
- ③ 月に1回、嘱託医による健康相談を実施し、歯科医による摂食指導や口腔ケア訓練等を実施した。利用者の障害程度の重度化、高齢化への対応として、内科検診を月に4回に増やし、協力医療機関を総合病院に変更し対応した。さらに個々の機能に合った食事形態の給食を提供した。
- ④ 生活介護事業利用者全員を対象に、健康診断を年1回実施した。

### (3) 給食サービス

- ①嗜好調査や献立の希望を聴取し、献立作りに反映した。障害、摂食状況に応じた二次加工を行ない、選択食も実施した。
- ②給食業者と食事提供のレベルアップに向け、月一回給食会議を実施した。
- ③適温給食に向け、温冷配膳車を運用した。

## 3. 会議・研修

### (1) 会議

- ①職員会議 月1回実施 4事業合同で、全職員（非常勤含む）が参加した。
- ②事業所会議 (訓練センター・生活介護事業会議は毎月1回、支援センター会議は月2回、地域活動支援センター会議は随時開催した。)
- ③ケース会議 必要に応じて生活支援センターと連携で実施した。
- ④予算会議 必要に応じて役職者で実施した。
- ⑤給食会議 月1回実施 委託業者調理員と合同で給食委員会を開催した。
- ⑥打ち合わせ 朝、夕全職員参加で実施した。
- ⑦役職会議 月2回（施設長会議の翌日）実施。情報共有や意見交換を実施した。

### (2) 研修

- ①法人研修 法人の研修計画に沿って参加した。
- ②外部研修 東京都、東京都社会福祉協議会、品川区主催等の研修に参加した。
- ③現任研修 月1回開催とした。また事業所内で適宜、企画し実施した。

## 4. 家族・地域社会との関わり

- ①生活介護事業にて事業説明会を年に2回開催した。
- ②生活介護事業では、必要な利用者に対して連絡帳による家庭との情報交換を実施。その他必要により個別面接を行った。
- ③運営協議会を品川区、地域関係者、障害者団体、法人の4団体で開催した。
- ④機関紙を発行し、関係機関や地域関係者に配布した。
- ⑤地域交流事業「会館まつり」を地域関係者、障害者団体と実行委員会を組織して開催した。

## 5. 行事

- ①館外活動（生活介護事業）
- ②会館まつり
- ③施設行事として、ハロウィン、クリスマス忘年会を実施。（生活介護事業）

## 6. 防災

- 月1回、全体で防災訓練を実施した。

# 令和元年度 品川区立心身障害者福祉会館 生活訓練事業報告

## 1. 総括

生活訓練の目的・機能を明確化し、事業を実施した。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また、区内の在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼し、稼働率向上を図った。

さらに、利用日が祝日の時は、振替え利用を促し、稼働率向上に努めた。

また、特別支援学校卒業後の利用施設となるように学校に働きかけ、実習生の受入れを目指したが利用には結びつかなかった。引き続き事業案内を進めていく。

訓練内容としては、見学・面接等で一人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からプログラムを作り、実効的な内容を提供した。

## 2. 利用者状況

利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名 目標稼働率 65%	月及び年間平均稼働率	
年間通して、登録者数を定員以上で維持し、目標稼働率を達成した。9月～11月は目標達成はできなかったが、一番高かった月は80%だった。 訓練は、個人に合わせた訓練メニューや目標に合わせた支援を提供した。日々、新規の方の利用促進に向け定期的に関係機関に働きかけを行った。引き続き、利用者増加に取り組んでいく。 利用者1名が企業就労に、2名が福祉的就労につながった。	4月：77.5%	10月：53.2%
	5月：80.0%	11月：59.2%
	6月：77.5%	12月：69.2%
	7月：75.8%	1月：66.7%
	8月：73.0%	2月：69.4%
	9月：48.2%	3月：68.3%
	年間平均稼働率	68.2%
	4月から9月	72.0%
	10月から3月	64.3%
	令和2年3月31日現在の在籍状況：6名	
男性 5名 平均年齢：45.8歳	女性 1名 平均年齢：54歳	全体平均年齢 47.2歳

## 3. 支援経過

- ①個別支援計画に基づき、作業療法士・理学療法士による訓練を実施した。
- ②訓練内容としては、一人ひとりのニーズを把握し、目標に沿ってパソコン課題、机上課題（プリント類）、軽作業、外出訓練、グループ訓練（軽作業、調理活動）を取り入れた。また、就労移行事業所や企業見学も実施した。
- ③外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に改善策を提案した。余暇活動も外出訓練とし、社会生活支援につなげた。
- ④生活調査を通じて、食生活・住環境・衛生管理・金銭管理等生活全般について、生活の質の改善、地域での自立を目指した。

## 4. 作業療法

作業療法士の評価、本人の希望等に基づき訓練内容の組み立てを行った。

## 5. 理学療法

作業療法がメニューの中心であるが、希望・必要がある場合には理学療法士による評価を行い、自主トレーニングメニューを作成した。



# 令和元年度 品川区立心身障害者福祉会館 機能訓練事業報告

## 1. 総括

機能訓練の目的・機能を明確化し、事業を実施した。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また、区内の在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼し、さらに、送迎サービスと訪問型訓練のサービスを開始し、利用者増を図った。また、特別支援学校卒業後の利用推進に向け学校に働きかけ、実習生の受入れや利用契約が進むように準備を進めた。訓練内容としては、見学・面接等で一人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からリハビリ計画書の充実を図ると共に、その計画に沿ったプログラムを作り、実効的な内容を提供した。

## 2. 利用者状況 利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員6名	目標稼働率35%	月及び年間平均稼働率		
医療機関ではないため、リハビリが主の目的ではなく、目的達成のためのリハビリを行う事業所と説明し、了承を得た方に利用いただいた。 稼働率は年間目標には届かなかったが、4月、8月、3月は、年間目標稼働率35%を上回った。 利用促進が課題のため、関係機関との連携強化を進めていく。 利用者1名を就労移行支援事業所につなげた。		4月：35.0%	10月：19.0%	
		5月：28.3%	11月：20.8%	
		6月：31.7%	12月：22.5%	
		7月：31.1%	1月：31.6%	
		8月：35.7%	2月：32.4%	
		9月：30.7%	3月：38.9%	
		年間平均稼働率	29.8%	
		4月から9月	32.1%	
		10月から3月	27.5%	
	令和2年3月31日現在の在籍状況：	4名		
男性3名	女性1名	全体平均年齢		
平均年齢：49.3歳	平均年齢：54歳	50.5歳		

## 3. 支援経過

- ①リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ②体力維持や向上に向け、理学療法士の指導・判断による自主トレーニングプログラム（エルゴメーター・筋力トレーニング等）を作成、自宅でも訓練の継続が図れるよう指導・助言を行った。
- ③就労を目標としたパソコン課題・机上課題・軽作業（仕分け・ピッキング他）等に取り組む事で得手・不得手の自覚に導き、改善方法を見出すことで就労意欲を喚起し、企業見学も実施して就労移行をサポートした。
- ④外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に改善策を提案した。また、余暇活動でも外出訓練を取り入れ、社会生活支援につなげた。
- ⑤送迎サービスを開始するためにリフト車両を1台購入した。また、訪問型訓練も開始し、サービスの充実を図った。

## 4. 理学療法

リハビリ計画書に基づいた理学療法士による機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に自主訓練メニューを作成した。

## 5. 作業療法

個別支援計画書に基づいた作業療法士による訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、利用者の様子を見ながら、個別性の高いプログラムを組み立て、実践の中で、達成度や改善点の共有を行なった。



# 令和元年度 品川区立心身障害者福祉会館 生活介護事業報告

## 1. 総括

個別支援計画に沿った支援を強化し、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援を継続した。また、摂食指導医や作業療法士・理学療法士との連携強化を継続したことにより、職員の摂食支援や作業療法・理学療法への理解が更に深まり、日々の支援への意識の向上が見られた。

支援方針としては、障害者相談支援センターと連携した個別支援と、利用者の希望・意向を尊重する支援を継続することとした。また、利用者の障害程度の重度化、高齢化への対応として、内科検診を月4回に増やし、協力医療機関を総合病院に変更した。

さらに職員配置を増員し、支援の充実を図るため、医療的ケアの勉強会を行い、痰吸引ができる職員の育成を進めた。また、重度障害者支援の研修に参加し、サービス向上への準備を行った。生活介護会議の中で職員が輪番でテーマを定め、グループディスカッションを行うことで職員個々のスキルアップを図り、事業全体のレベルアップに努めた。

## 2. 利用者状況

### 利用人数・稼働率

利用者定員 50名	目標稼働率 91%	月及び年間平均稼働率		
年度途中で1名が他施設に移行し、1名が他区へ引っ越し、1名が入院し、在宅に戻れない状況となり、合計3名が退所している。新入所は、10月から1名いたが、すぐに入院となり、利用期間が短かった。(在籍はしている) 新年度に特別支援学校からの入所はなかったことや長期欠席の方もおり、稼働率に大きく影響が出ていた。 今年度より東京都の補助金「重症心身障害者通所事業」により、大幅に収入を上げている。		4月：83.2%	10月：78.4%	
		5月：80.5%	11月：72.8%	
		6月：80.6%	12月：75.1%	
		7月：82.1%	1月：74.6%	
		8月：78.2%	2月：79.2%	
		9月：78.7%	3月：76.2%	
		年間平均稼働率	78.3%	
		4月から9月	80.6%	
		10月から3月	76.1%	
	令和2年3月31日現在の在籍状況：50名			
男性 31名 平均年齢：34.7歳	女性 19名 平均年齢：37.3歳	全体平均年齢 35.7歳		

## 3. 支援経過

- ①体温や血圧等、利用者の健康状態の把握を進め、個別によりきめ細かく配慮した。
- ②リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ③個別プログラムとして散歩、創作活動等をその日の希望により個別に実施した。
- ④全体プログラムとして音楽活動、カラオケ、ビデオ鑑賞等を実施してきた。また、新たな生産活動のプログラムとしてメモ帳作りを実施した。

⑤感覚刺激を利用したプログラム（手浴・足浴、音楽療法、リラクゼーション、読み聞かせ、スヌーズレン等）に重点をおき、実施した。

#### 4. 理学療法(PT)

リハビリ計画書に基づいた理学療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、生活支援員が理学療法士の指導の下、日常のマッサージ等を実施した。

また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

・訓練実施回数 年48回

#### 5. 作業療法(OT)

リハビリ計画書に基づいた作業療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、手指の巧緻性や上肢の運動機能、認知機能等の向上に向けた訓練を実施した。

・訓練実施回数 年36回

#### 6. 音楽療法

講師を招いてミュージックセラピーを実施、音楽に合わせた身体運動により精神的緊張の軽減と情緒の安定、音楽を楽しむ時間を作り、支援の充実を図った。

・実施回数 年24回

#### 7. 摂食指導及び給食サービス

必要な利用者へ、家族、摂食指導医、栄養士、給食委託業者、看護師、生活支援員が連携を図り、利用者個々に適した食形態の食事提供及び食事介助方法の検討を行い、サービスの質の向上を図った。

・実施回数 年12回

#### 8. 送迎サービス

必要な利用者へ、車両による送迎サービスを実施した。またリフト車両を2台購入し、入れ替えた。

・利用人数 33名/50名 全登録者数中（全員がほぼ往復利用）  
（令和2年3月31日現在）

#### 9. 虐待防止やサービス向上への取り組み

毎月1回、虐待防止委員会やサービス向上委員会を実施した。また今年度は「人権擁護に関する職員アンケート調査」と「品川区施設サービス向上委員会作成のセルフチェック」を実施した。その中で、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

# 令和元年度 品川区障害者生活支援センター 事業報告

## (品川区旗の台障害児者相談支援センター)

### 1. 総括

令和元年度は、区内に新しい民間相談支援事業所が4か所開所し(内、児童相談対応2か所)、利用者が相談支援事業所を選択できるようになる等、区内の相談支援体制が大きく変わった一年であった。また、モデル事業として在宅介護支援センター併設型相談支援事業所が2か所開設したため、利用者に丁寧に説明し、同意を得ながら移行を進めた。10月からは障害児相談を開始し、品川区と連携を取りながら新規未就学児から徐々に相談支援を実施した。

その他、地域拠点相談支援センターの役割として、休日や夜間を含め緊急時に24時間対応できる体制を整えた。今年度時間外に対応したケースは2件であった。

専任作業療法士(OT)による高次脳機能障害者専門相談については、ここ数年、専門相談を介さずにサービスに繋がるケースが増加している為、専門相談の件数としては減少しているが、今後も、相談支援体制の変化や現状のニーズに合わせながら、区内の高次脳機能障害者の相談窓口としての機能を果たしていけるように、関係機関にも周知していく。

ピアカウンセリングでは、個別相談の他、出張相談を実施している。実施方法についての課題を解決するため、次年度に向けてさらに利用者が相談しやすい方法を検討し、令和2年度より具体的な計画を進めていく。

巡回入浴については、利用者数の増加や契約事業所の様々な理由により2事業所で対応しきれない現状がみられたため、年度途中より新たに2事業所を増やすことで柔軟にニーズに対応できるように改善した。

今後、更に民間相談支援事業所が増えていく中で、拠点相談支援センターとしての責務を果たしていくために、役割を明確にし、区障害者福祉課や他法人の同センターと連携を密にしていく。

### 2. 実施事業

(1) 障害者対象の総合相談、障害児者福祉サービスの利用援助について

- ① 各種の福祉情報を提供した。
- ② 各種福祉サービスを利用する際の援助を行った。
- ③ サービス利用計画書、障害児支援利用計画書を作成、サービス調整、モニタリングを行った。
- ④ 障害区分の認定調査を実施した。  
(ア) サービス担当者会議を開催した。

- (イ) サービス調整会議に参加した。
- (ウ) 障害者の緊急時に対応した。
- (エ) 区内障害児者関係事業所との連携を図った。
- (オ) 品川区障害者福祉課と連携し、利用者の生活を総合的に支援した。

(2) 社会資源を活用するための支援

- ① 各種施設・関係機関等の紹介を行った。
  - ② 障害者が外出する際の支援を行った。
  - ③ 障害者に対しての住宅の紹介を行った。
  - ④ 外出や旅行、買い物などの生活情報を提供した。
  - ⑤ 障害者の自主グループ等の情報を提供した。
- (3) 社会で生活するための能力を高める支援を行った。
- (4) 障害者自身によるピアカウンセリングを実施した。
- (5) 訪問リハビリ相談  
在宅の重度の身体障害者を対象に、車椅子・補装具・リハビリテーションに関して理学療法士による相談日を設け、助言指導を行った。
- (6) 関係機関とのネットワーク構築を目指し、行政・各障害者施設・各ヘルパー事業所・就労支援センター等と連携を図った。
- (7) 自立支援協議会へ参加した。
- (8) 入浴サービス  
家庭での入浴が困難な重度の障害者の方々へ巡回入浴車を派遣した。
- (9) 高次脳機能障害者相談

専任作業療法士による高次脳機能障害者の相談支援を実施した。高次脳機能評価などのアセスメントを踏まえ、関係機関への紹介や本人・家族が障害と向き合える環境整備を行った。

3. 受講した研修等

- ・東京都障害程度区分認定調査員研修（東京都福祉保健局）
- ・東京都相談支援従事者初任者研修（東京都福祉保健局） 他

4. 実習生の受け入れ

東洋大学ライフデザイン学部、学研アカデミー、教員免許取得実習 他

5. 相談支援事業内容集計(障害者)

①相談者内訳

(数字は延件数)

	本人	家族	関係機関	病院	その他	合計
R 1年	2,318	1,071	3,977	269	18	7,653
H30年	2,060	1,008	3,933	397	11	7,409
H29年	1,508	920	4,113	320	56	6,917

②調査件数

(数字は延件数)

	認定区分調査 (新規・更新・変更)	介護給付・訓練等給付 (新規・更新・変更)	計画相談 (新規・更新・モニタ)	合計
R 1 年	127	281	737	1,145
H30 年	68	227	949	1,244
H29 年	107	193	578	878

③相談内容内訳

(数字は延件数)

	R 1	H30	H29		R 元	H30	H29
福祉サービス利用	6,750	6,466	5,755	社会参加・余暇活動	577	408	156
障害や症状の理解	753	904	485	権利擁護	54	58	17
健康・医療	1,693	1,816	1,334	制度活用・説明	362	409	398
不安解消・情緒安定	336	315	135	住宅改修	3	7	12
保育・教育	30	13	3	補装具関係	63	72	77
家族・人間関係	742	937	543	日常生活用具	58	52	33
家計・経済	241	215	72	ピアカウンセリング	18	6	8
生活技術	439	223	141	その他	1,257	1,010	915
就労	715	797	518	合計	14,091	13,708	10,594

④対応

(数字は延件数)

	情報提供	指導助言	サービス設定	サービス再調整	訪問設定	他機関調整	補装具	日常生活用具	その他	合計
R 1 年	5,454	499	124	1,324	1,053	102	29	34	718	9,337
H30 年	5,956	303	185	1,249	929	350	51	31	465	9,519
H29 年	5,906	191	230	455	555	178	77	25	563	7,370

6. 相談支援事業内容集計(障害児)

①相談者内訳

(数字は延件数)

	本人	家族	関係機関	病院	その他	合計
R 1 年	0	3	3	0	0	6

②調査件数

(数字は延件数)

	計画相談 (新規・更新・モニタ)	合計
R 1 年	13	13

③相談内容内訳 (数字は延件数)

内 容		内 容	
福祉サービス利用	33	社会参加・余暇活動	0
障害や症状の理解	17	権利擁護	0
健康・医療	1	制度活用・説明	7
不安解消・情緒安定	2	住宅改修	0
保育・教育	4	補装具関係	0
家族・人間関係	10	日常生活用具	0
家計・経済	0	ピアカウンセリング	0
生活技術	0	その他	4
就労	0	合計	78

④対応 (数字は延件数)

	情報提 供	指 導 助言	サービ ス設定	サービ ス再調整	訪 問 設定	他機関 調整	補 装 具	日常生 活用具	その他	合計
R 1 年	23	3	11	7	10	2	0	0	5	61

# 令和元年度 品川区障害者地域活動支援センター事業報告

## 1. 総括

令和元年度は、介護人材育成事業として「移動支援従業者養成研修」の事業者指定を受け、3月に研修を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、次年度に開催することとなった。

また、昨年度実施したアンケートから得た意見やニーズを、各種教室や講習会、ワークショップ等の開催内容にできるだけ活かすよう努めた。今年度参加人数の少なかった講座については、事業内容を見直し、利用者のニーズに沿った内容となるように次年度の計画を立案した。

講習会のクラス運営等については、講師や受講生から様々な要望等を受け、その都度、品川区所管課に状況を報告しながら対応を行った。また、関係団体や区登録通訳者等からの意見についても、区と共有しながら回答し、次年度以降に向けて新たな提案を行った。

## 2. 事業状況

### (1) 相談・指導・訓練

- ①一般相談:窓口や電話により各種相談に応じた。ボランティア活動希望等については各種事業やボランティア団体等を紹介し、ニーズとサービスを結び付けた。
- ②言葉のリハビリ教室:脳血管障害による失語症罹患者を主な対象にして、言語療法士の指導のもと言語訓練を実施した。この教室のメンバーを中心に自主グループが活動しており、側面的な支援を行った。

### (2) 社会参加プログラム

地域で自立した生活を送れるよう、生活基盤作りのためのプログラムを組み、仲間との交流や趣味を持つことで生活の質が向上するように援助した。

- ①創作(工作・切り絵)教室
- ②料理教室
- ③音楽教室
- ④ダンス教室
- ⑤健康体操教室
- ⑥高次脳機能障害者・知的障害者の生活講座

### (3) 障害者パソコン指導

障害者の情報通信技術(IT)の活用のニーズに応えるため、障害者パソコンテーマ別教室と相談日を設定、実施した。

### (4) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚障害者からの依頼により、手話通訳者・要約筆記者の派遣を行った。技術向上のため、登録手話通訳者・要約筆記者への現任研修を実施した。

### (5) ボランティア育成・啓発事業

障害者の完全参加と平等という障害者福祉の理念が区民に深く定着するよう、ボランティア講習会を実施し、各種団体と連携をとりながら育成を行った。各種講習会を通して、障害者福祉の啓発に努めた。また、区内

の中途失聴・難聴者向けに、他団体と協力して区民公開講座を開催し、参加者のアンケートを基にニーズを掘り起こし、次年度の講座内容について検討を行った。

講座・講習会：手話講習会、点字講習会、朗読講習会等

(6) 交流室の運営

事業等に参加した方が気軽に立ち寄れるスペースとして交流室を活用した。季節に応じた行事等を企画し、利用者に親しまれ、様々な情報を得られるようなスペースとなるよう工夫した。

(7) 各種貸し出し事業

①部屋の貸し出し

障害者団体およびボランティア団体、地域住民に対し部屋や事務機器等の貸し出しを行った。

②区内の障害者に対して車椅子の貸し出しを行った。

事業名	R元	H30	H29	事業名	R元	H30	H29
パソコン教室 教室・相談・テーマ別	89	103	142	創作教室 手芸・編み物・工作 切り絵・絵画、和紙・折り紙	396	351	484
ダンス教室 (知的障害)	81	79	77	生活講座 知的	14	21	37
健康体操教室 (肢体不自由)	194	195	180	生活講座 高次脳機能障害	54	39	45
料理教室(知的)	45	43	32	聞こえにくい方の コミュニケーション講座	0	22	28
料理教室(身体)	39	27	35	点字講習会	111	108	162
PT訓練	/	/	/	手話講習会(全5クラス) 入門・基礎・通訳I	2,266	2,004	1,881
言葉のリハビリ教室	216	256	257	朗読講習会	249	269	191
音楽教室(歌・合唱)	111	102	119	中途失聴・難聴者 サポーター養成講座	55	0	43
音楽教室(音楽療法)	55	50	66	造形ワークショップ	84	0	12
高次脳機能障害者 サポーター養成	46	43	36		/	/	/

交流室	1,377	1,297	1,104	手話通訳者派遣事業	779	706	919
合同交流会	/	96	104	要約筆記者派遣事業 (区/広域・派遣C)	80	67	35

数字は延人数 斜線は事業開催なし

# 令和元年度 八潮中央保育園事業報告

## 1. 総括

在籍人数は年間を通して定員を満了した状態であった。9月、10月に大型台風の接近により、登園自粛の要請、土曜日保育の休園、行事（運動会）の延期、縮小等、例年になく対応を行った。また、2月下旬より、新型コロナウイルスの感染防止対策として、登園の自粛要請や行事の縮小を行った。

## 2. 利用者状況

令和元年度年齢別利用状況（令和2年3月31日現在 単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	108	180	180	240	239	238	1185
月平均在籍数	9.0	15.0	15.0	20	20	20	99

利用率（％）

年 度	令和元年度	30年度	29年度
利用率	110	110	108.8

延長夜間保育利用状況（人）

年 度	令和元年度	30年度	29年度
月平均延人数	161	136	159

延長夜間保育における時間別年間利用状況（人）

令和元年度	～19：30	～20：30
平均	5.9人	2.4人

年末保育利用状況（人）

年 度	令和元年度	30年度	29年度
12/29	0	3	5

※例年地域の利用が無い為、在園児のみを対象とした。

## 3. 保育経過

### (1) 保育全般

全体的な計画を基に、各クラスの指導計画に沿って園児一人ひとりの健やかな成長を第一に考えて保育を行った。

### (2) 日課

乳児は、午前中に散歩や散策等の戸外活動を取り入れ、存分に体を動かしながら自然に触れる機会を多く取り入れた。

幼児クラスは異年齢の交流や行事の取組みを含めた様々な活動を取り入れつつ、散歩や園庭遊び等で身体を動かしたり集団遊びを積極的に取り入れた。

### (3) 行事

季節毎の行事は、各年齢に合わせた説明や取組みを行い、子ども達に行事の由来や意味を伝え、行事の雰囲気を楽しめるように配慮した。

### (4) 健康管理

9月下旬から10月上旬、また、12月初旬から中旬にかけてインフルエンザA型が流行したため、保健所に報告している。また、同時期に溶連菌感染症が流行した。感染症が流行し始めた段階で、保護者には適宜、情報提供している。

ケガによる通院件数は16件であり、室内や戸外での転倒による歯牙の打撲が年齢を問わず多い。また、座位姿勢からバランスを崩しての骨折が1件あった。

### (5) 給食

和食を中心としたメニューを基本とし、様々な味を経験する機会を作った。食物アレルギー児に対しては、主治医の診断書をもとに除去食を提供している。

### (6) 地域交流

5歳児は八潮内の保育園、幼稚園との交流や八潮学園での様々な体験の機会を通して地域との交流を行った。その他、品川区立品川児童学園との交流や八潮在宅サービスセンターとの世代間交流を継続した。

### (7) 一時保育

幼稚園の春の長期休み時に、5歳児の利用申し込みがあった。その他数件、乳児クラスの申し込みがあったが、受け入れ態勢が整わずお断りしている。

## 4. 会議・研修

品川区私立保育園連合会他、キャリアアップ研修、その他様々な団体主催の研修に職員を派遣した。また、内部研修として、講師を要請し、コミュニケーションについて、乳幼児期の歯科、離乳食についての研修を実施した。

会議については月2回の職員会議で意見交換を行い、共通認識を促した。その他、全体職員会議を年3回実施し、次年度の計画等を全職員で検討する場とした。

また、サービス向上委員会を中心に2021年度の大規模改修に向けて区内他園の見学を年に数回行い、見学の際に気が付いた点を発表、職員全員による意見交換を行い、改修に向けて具体的な構想や願いを共有する場を設けた。

## 5. 保護者との関わり

全体保護者会やクラス保護者会、個人面談を通して保護者と情報を共有することで連携を図った。また、保育参観、保育参加を通して、園の様子や子どもの様子を見て頂くことで、園の運営理解や良好なコミュニケーションを図る機会となった。

## 6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。9月に引取り訓練、2月に津波想定訓練、3月に時間や場所等の予告をせずに緊急避難訓練を実施した。また、11月に安全対策として職員と年長児も参加しての不審者対応訓練を実施した。

## 7. 環境整備、備品購入

次年度に向けて、簡易的な防災用ヘルメット（タタメット）を購入し、避難の際にスムーズに携帯できるようにする。また、パソコンを3台新規購入（リース）し、職員の業務にかかる時間の短縮を図り、超過勤務の削減を目指す。

# 令和元年度 かえで荘事業報告

## 1. 総括

今年度の稼働率の推移をみると、年度の後半から目標稼働率を下回る月が一度もなく維持できた。要因としては、4月を軸に大幅に利用者が入れ替わり、その後も比較的健康状態が安定している方が入所されたことが大きかった。また、介護士や看護師も、日々の観察を丁寧におこない、異変への早期発見、早期対応に努めたことが、平均入院日数の減少にもつながり、相乗効果としてあらわれたと思われる。

しかし、年度替わりに、生活相談員が2名とも交代し、慌しいスタートとなってしまったことは、影響が大きいだけに今後の課題として認識できた。8月以降は、入所調整の方向性と現状の把握を綿密におこなったことで、稼働率が回復でき今年度の目標稼働率が達成できた。

感染症については、今季のインフルエンザ罹患者がゼロであった。その他の感染症の発生もなく落ち着いており、感染症予防対策への意識が高まってきていると考えられる。

また、職員状況に関しては、看護師の常勤採用が進まず、派遣看護師で対応せざるを得ないことや、新規採用がなかなかできない中で、中途採用の常勤介護士は紹介会社からの採用となることがほとんどであるため、人件費を圧迫し事業所の運営（収支）に影響を及ぼす結果となった。

## 2. 利用状況

### (1) 利用者状況

<要介護度> (令和2年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	4	8	25	28	18	83

・平均要介護度 3.6 (平成30年度 3.5) (※一時入所含む)

利用者のうち要介護度3・4・5の利用者が85%を占める。

<年齢> (令和2年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	2	0	0	3	2	6	0	13
女	0	2	2	10	23	31	2	70
計	2	2	2	13	25	37	2	83

・平均年齢 88.4歳 (平成30年度 88歳)

・最低年齢 64歳 最高年齢 103歳

### (2) 稼働率

令和・平成 年度	元年度	30年度	29年度
利用率 (%)	96.3	94.0	96.1

### 3. 援助計画

#### (1) 機能回復訓練

機能訓練指導員として作業療法士を配置。多職種間で利用者のニーズを共有し、協議にて個別機能訓練計画書を作成した。利用者の臥位姿勢の向上、苦痛緩和等を目的として開始した作業療法士によるポジショニング研修(約3時間/名)を、3月末までに全介護士が修了。「ポジショニング」という概念は定着したが、技術習得のための業務時間内での個別指導の実施が課題となっている。

<機能回復訓練実施状況> (令和2年3月31日現在 単位:延人数)

令和・平成・年度	元年度	30年度	29年度	
内	歩行訓練	99	138	257
	立位バランス	112	58	52
	極超短波療法	0	0	0
	上半身機能訓練	845	999	1,145
	下半身機能訓練	5	3	95
容	生活リハビリ	17,743	17,904	18,257
合計		18,807	19,102	19,808

#### (2) 余暇活動

花布巾サークル・書道サークル・園芸サークル・体操・認知症高齢者向けの音楽や読み聞かせ、傾聴などボランティアの協力のもと実施しているが、ボランティアの来所者数が減り、サークル実施の回数もそれと連動して減少傾向。各フロアでのレク活動(カラオケ、創作等)・料理サークル活動および外出援助は介護士が中心となり行った。近隣保育園との交流は利用者に変喜ばれ毎回好評であった。

#### (3) 行事

##### ① 月例行事

定例で近隣のショッピングセンターへの外出を実施した。その他遠出などの外出も計画的に行った。利用者の要望による散策・出前食等も継続して行った。

##### ② 年間行事

おおむね年間を通じて、季節ごとの行事を楽しんでいただいた。一昨年リニューアルした法人行事の紅葉フェスタのほか、利用者の希望・身体状況に応じ、個々のニーズに合わせ、買い物や近隣への散歩もおこなったが、遠方に出かける機会が数回と十分確保できなかったため次年度は計画的に実施したい。

#### (4) 利用者の健康管理

昨年度に比べると、大幅に入院者(延べ人数)、入院延べ日数、平均日数ともに下回っている。入退院を繰り返していた方が複数名退所され、その後安定したことが数字に表れている。今後も早期発見、早期対応に努め、日々の健康管理と持続的観察の強化を図っていきたい。

<入院状況>

年度	入院延べ人員(人)	入院延べ日数(日)	平均入院日数(日)
令和元年度	113	1,483	13.12
30年度	145	2,352	16.22
29年度	126	1,987	15.76

(5) 食事

他職種間での情報、データ共有または会議を行い、栄養ケアマネジメントと利用者の栄養管理、給食管理に努めた。また、職員向けの学習会の際に、食事介助研修と食物アレルギーについての研修を実施した。施設での余暇支援の一環、食の楽しみとして、後期は料理サークルを実施した。

日々の食事については、委託業者を含め給食会議で食事環境の改善を検討し、安全な食事提供を推進するなど、給食委託業者との連携も良好であった。

<食事形態の状況> (令和2年3月31日現在、入院者除く実人員)

年度	ペースト食	きざみ食	あらきざみ食	経管栄養	一般食
令和元年度末	11	26	28	7	10
30年度末	11	22	31	5	7
29年度末	14	26	22	7	8

4. 会議・研修

(1) 研修

毎月1回現任研修を開催し、専門職として必要な技術・知識の習得を中心に行った。外部研修では、東京都認知症基礎研修への参加を促し、認知症ケアについて学ぶ機会を多く設けた。また、学習の機会だけではなく情報共有のための周知方法や研修報告の機会が少なかったため、次年度は増やしていきたい。

(2) 会議

介護士の参加率を上げるために時間外に職員会議を設定した。そのことにより情報の共有化が図れるようになった。また、参加できない職員への情報周知方法も供覧をコメント方式にしたことで、全職員が目を通したことを確認できるようになった。フロアー会議は概ね月一回の開催が定着し、業務改善やフロアーでの取決めなどが周知されやすくなった。

(3) 委員会活動

サービスの向上と職員の資質向上を目的に、事故防止委員会・身体拘束適正化委員会・感染症対策委員会・褥瘡予防委員会・医療的ケアの安全対策委員会と、介護の基本である排泄、入浴、食事に関する担当を組み合わせ定期開催日を固定した。各担当者が会議に参加できるように勤務を調整し、委員会活動が活発化することで、職員の意識が変わり、組織としての体制づくりが一步ずつ進みだしている。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

家族との協力関係の推進と事業に関する情報提供等のために、家族会の開催、かえで新聞の発行、利用者担当介護士から家族への報告を年2回文書で送付している。また、家族来荘時、電話による連絡・相談を心がけ連携体制を強化した。

<面会状況>

令和・平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
面会者件数	2,906件	2,044件	2,500件
面会延べ人員	3,497人	2,933人	2,644人

(2) ボランティア

ボランティア委員会が中心となり、地域福祉課と連絡・調整をし、地域・学生ボの受入れを行った。サークル活動のボランティアが減少傾向。

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	16	107	その他	16	112
理美容	0	0	令和元年度計	37	264
園芸	5	45	平成30年度計	34	351
行事	0	0	平成29年度計	51	349

(3) 実習生

福祉事業を支えるマンパワー育成に協力するため、実習生を積極的に受け入れる体制をとっていた。しかし、今年度も実人員4人（昨年度14人）、延べ日数は78日（昨年度50日）横ばい、介護系学校からの実習依頼は1校のみ。介護系ではない大学から教職関連の実習など、目的に応じた受け入れをおこなった。

(4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業に参加した。また、地域の保育園等との交流にも力を入れ、受入れ時の工夫を図り園児や先生の高評価を得た。今後も八潮北保育園・東大井保育園とは定期的な交流を継続し、共生社会の一端を担っていきたい。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

調整の要である生活相談員が2名同時に異動し、業務が安定するまでに時間を要した。また、特養の調整が急務であったためショートステイへの働きかけが出来なかった。ほか低下の要因は、定期利用者の減少と、利用する側に選択の幅の広がったことにより、施設入所を選択するケースが増えていることが考えられる。

(2) 利用実績

令和・平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
延べ日数	1,584日	2,210日	1,908日

(3) 稼働率

令和・平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
利用率 (%)	72.2%	109.9%	87.1%

7. 防災

防災計画に基づき、センター内各施設が持ち回りで指揮者となり、毎月1回の総合防災訓練と年2回のBCP（事業継続）訓練を実施した。9月に八潮地区総合防災訓練に参加。八潮学園の学生と車椅子利用者が避難訓練に参加した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	機械浴槽、乾燥機、洗濯機、加湿器の修繕・改修
備品購入関係（介護関係）	車椅子、吸引器、汚物用カート

# 令和元年度 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告

## 1. 総括

総括リーダー、相談員を含み6名が転出となり、年度当初は人手不足が深刻な状態であり派遣介護士を導入したが、年度内で2名の介護士を新規採用することができ、12月で介護士の派遣は終了している。日々の業務に追われるなかで人為的なミスによる事故が発生し、利用者に不利益を生じさせてしまうこともあったが、事故については検証を行い再発防止に努め、そこから次のケアへ繋げることが出来るように取り組んだ。

目標稼働率は収支状況も考慮し96%に設定したが、93.8%と約2.2%及ばなかった。稼働率低迷の要因として、第一に入院者の増加が挙げられる。入院の日数も長めになる傾向があり、退院予定日直前の変更（延長）が目立っていた。また、関係者との関わりが困難な事例があり、生活相談員がそこも担っていたため精神的な負担が大きく、入所調整にも支障を来すことがあった。

看取り介護については、事業所の日常のケアとして定着している。今年度は10名の利用者に対応した。「最後の最期までその人がその人で在り続けること」を念頭にケアを行い、看取り介護を行うことが職員の利用者対応力の成長に繋がっている。

昨年度より開始した夜間入浴については継続して実施している。施設と言う制限の多い場所で生活する中で、ご利用者自身が「自分で決める」ことが出来るようになった一歩であった。夜間に入浴を行うことで日中の過ごし方にも変化が生じ、活動的な場面が多く見られた。この件に関しては「品川福祉保健従事者実践研究発表会」で発表し、最優秀賞を獲得した。

## 2. 利用状況

### (1) 利用者状況

<要介護度> (令和2年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	申請中	合計
利用者数	3	5	19	33	18	0	78

・平均要介護度 3.7 (平成30年度 3.7)

利用者のうち要介護度3以上の利用者が89.7%を占める。

<年齢> (令和2年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	0	3	2	2	6	0	13
女	0	0	1	8	18	31	7	65
計	0	0	4	10	20	37	7	78

・平均年齢 90.5歳 (平成30年度 89.4歳)

・最低年齢 75歳 最高年齢 104歳

### (2) 稼働率

平成(令和)・年度	1年度	30年度	29年度
稼働率 (%)	93.8	94.1	92.6

### 3. 援助計画

#### (1) 日課・週課

心身の状態変化に応じてきめ細かく担当者会議を行い、多職種間での情報共有と意見交換を重ね、ケアプランの変更やサービス内容の確認を行なった。また、一斉一律のケアから個別ケアへの取り組みの推進、居室担当者の役割の強化、モニタリングの適切な実施を行い、ご本人の望まれる暮らしに近づける実践につなげていった。

#### (2) 機能回復訓練

日常生活の中で、利用者自身の持てる力を発揮し、身体機能の維持向上を図るため自然と身体を動かすことを生活リハビリと位置づけて実施した。マッサージ師、理学療法士によるリハビリ計画に基づき個別の訓練を中心に実施し、一人ひとりの機能維持、向上に努めた。

<機能回復訓練実施状況>

(単位：人)

平成(令和)・年度		1年度	30年度	29年度
内容	歩行訓練	2 2 7	2 7 0	3 8 1
	立位訓練	4 1 3	5 1 9	7 2 4
	端座位訓練	1 7 4	1 7 3	2 1 2
	温熱療法(極超短波・ホットパック)	6 6	1 6 5	2 2 8
	四肢体幹機能訓練	2, 2 1 4	1, 2 9 3	1, 5 1 5
	生活リハビリ	3 8, 5 3 0	3 8, 0 5 8	3 7, 6 6 5
	集団リハビリ	0	7 2	7 3
計		4 1, 6 2 4	4 0, 5 5 0	4 0, 7 9 8

#### (3) 余暇活動

園芸、折り紙等のサークル活動については、ボランティアの協力を得て、個人にあった活動を行なった。特に園芸については、年に2回の評価会を実施し、園芸療法研修会との連携を強めている。ご利用者の願いや要望に添い、普段の日常生活の中に喜びや満足感を感じられる時間が創出できる支援を進めてきた。

#### (4) 行事

##### ① 月例行事

お花見、敬老会、バイキング食事会など季節感のある行事を企画し、食事メニューにも工夫を重ね、利用者に喜んでもらえるよう、またご家族にも楽しんで頂けるよう、各階単位で企画・実施し、施設職員との距離感を縮める工夫をした。

##### ② 年間行事

中延複合施設の全体行事『くつろぎ祭り』のほか、年末の餅つき大会などを実施した。また、法人本部の行事(オレンジカフェ・五月祭り・紅葉祭り)にも参加した。

#### (5) 利用者の健康管理

入院者の延べ人数、延べ日数共に増加している。新入所者の入所直後の入院が目立った。退所者数は26名であった。

<入院状況 単位：人・日>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
1年度	109	1,433	13.1
30年度	77	1,152	15.0
29年度	96	1,465	15.3

#### (6) 食事

委託業者と連携し食事提供を行った。味や盛り付けも安定しており、利用者には好評だったが、食材の調達についてはコスト面で厳しい状況となっている。その他、栄養ケア計画に基づき、医師、看護師、介護士等と連携し、その方にあった食事を提供してきた。また、各種栄養補助食品等を活用し、可能な限り経口摂取を行っている。

<食事形態の状況>

(実人数)

	ペースト食	極きざみ食	きざみ食	粗きざみ食	常食	経管栄養
1年度末	10	8	21	30	5	2
30年度末	5	11	24	27	7	4
29年度末	5	10	25	28	7	4

#### 4. 会議・研修

##### (1) 研修

ケアの質の向上、職員のスキルアップのために、品川福祉カレッジや東京都主催の権利擁護研修等、各種の研修に積極的に参加した。

##### (2) 会議

サービス担当者会議・フロア会議等を必要に応じて、随時および定期的に開催した。特にサービス担当者会議は、短時間でも細かく丁寧に行ない、随時ケアを見直した。また、原則リーダー全員参加による「役職者等連絡会」を月に2回程度開催し、様々な情報共有と意見交換、ケア方針等の確認を行った。

##### (3) 委員会活動

定例会議と連動して指針に基づき、事故防止、感染症予防、床ずれ予防、看取り、虐待防止、サービス向上等の各委員会を随時開催した。

#### 5. 家族・地域との関わり

##### (1) 家族との連携

3回の事業説明会を開催。事業説明会では職員のケアに対する取り組みの発表も行っている。また、各フロア毎の懇談会も実施している。

<面会状況>

平成(令和)・年度	1年度	30年度	29年度
面会延べ人員	4,946人	6,132人	7,306人

##### (2) ボランティア

介護士の補助的な業務や行事関係だけでなく、館内の樹木の水やりや清掃など、施設内の状況を見て、自主的に関わっていただいている。洗濯物畳みについては担当職員と特に良好な関係を保ち、地域の方への施設理解につながっている。台風の影響で

くつろぎ祭りが中止となったため、実人員は減少した。また、コロナウイルスによる感染予防対策として2月下旬よりボランティアの受け入れを中止している。

<ボランティア活動状況>

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	10	169	行事	4	4
余暇活動	0	0	その他	12	52
介護士業務補助	26	496	令和1年度計	70	896
傾聴	10	70	平成30年度計	112	803
園芸	8	105	平成29年度計	71	832

(3) 実習生

実人員37人（昨年度43人）、延べ日数は362日（昨年度400日）の実習生（介護福祉士・看護師等）を受け入れた。介護福祉士養成校の実習生（令和1年度卒業生）6名のうち4名は当事業所で採用している。

(4) 地域社会との交流の推進

地域で開催される例大祭や盆踊り大会への参加と協力、都営住宅や町会との合同防災訓練等を企画・実施した。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

①定員10名②居室2階（2人部屋1室・個室2室）3階（2人部屋1室・個室4室）

(2) 稼働実績

平成(令和)・年度	1年度	30年度	29年度
延べ日数	3,329日	3,431日	3,268日

(3) 稼働率

平成・年度	1年度	30年度	29年度
稼働率(%)	91.0	94.0	89.6

申し込み数は平均25・6件だが、急な入院等によるキャンセルでベットが空いてしまうことがあった。職員の短期入所生活介護事業に対する理解が進み、緊急利用については出来る限り受入を行うことが定着している。

7. 防災

防災計画に基づき、毎月1回の防災訓練及び震災想定訓練を実施し、内、年2回は合築の都営住宅、町内会との合同訓練を行った。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

建物設備、備品類の経年劣化が目立ち、修繕や購入を進めている。

修繕・改修関係	冷温水発生機、循環浴ろ過装置、厨房照明器具
環境整備関係	空気清浄機（ジアイーノ）レンタル
備品購入関係	介護用ベット、車椅子、スポットクーラー

# 令和元年度 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告

## 1. 総括

利用者一人ひとりにとっての安心安全を優先する生活の場の提供を実践し、特に今年度は虐待防止、身体拘束廃止について重点的に取り組んだ。虐待防止については、月1回のセルフチェックや現任研修を通じて不適切なケアの防止に取り組んだ。身体拘束廃止については、家族の要望で1名が対象となっていたが、地道に家族とのコミュニケーションを取りながら、年度末には解消することができた。

サービス向上に対しては、第三者評価の受審や品川区施設サービス向上研究会によるセルフチェックを実施し、課題の把握と対応に努めた。

職員の資質向上のため月1回の現任研修の他、福祉カレッジや東社協の研修にも最低1回は参加できるようにした。しかし、勤務体制に負担があり、充分とは言い難い状況だった。職員配置では、必要な職員数不足が生じ、長期休養、急な退職もあり、派遣や非常勤で賄うも補充に時間がかかり、職員の夜勤や超過勤務などの負担が増加した。

稼働率については、平成30年12月より相談員が変更となっていたが、十分な入所調整をすることができず、今年度11月に入ってから新たな相談員を配置した。入退所調整に集中できるよう、フロアリーダー等と役割分担をして対応した。しかし目標稼働率を達成することはできず、利用者の入所後すぐの入院や長期入院、入院の末の退所が目立った。

ショートステイについては、昨年度より稼働率の低迷が続いており、職員付き添いで送迎や在宅介護支援センター等への営業も行ったが、稼働率向上には結びつかなかった。ショートステイの利用状況について、八潮地区では希望者自体が減少傾向であり、ショートステイの居室を特養入所の居室に転換することを検討し、品川区とも協議を継続している。

## 2. 利用状況

### (1) 利用者状況

<要介護度> (令和2年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	1	9	24	31	15	80

・平均要介護度 3.6 (平成30年度 3.7) (※一時利用含む)

・全利用者のうち要介護度3以上の利用者が87.5%を占める。

<年齢> (令和2年3月31日現在 単位：人)

性別年齢	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	1	0	4	5	10	0	20
女	0	2	0	6	18	33	1	60
計	0	3	0	10	23	43	1	80

・平均年齢 89.6歳 (平成30年度 90.3歳) ・最低年齢 71歳 ・最高年齢 102歳

### (2) 稼働率

平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
稼働率 (%)	93.1	93.1	94.8

### 3. 援助計画

#### (1) 日課・週課

利用者本位の姿勢を重視し、利用者自身が生活の中で力を発揮できるよう支援しているが、食事や日常の基本的な介助が増加し、食事時間を利用者本位の時間に合わせて実施することが難しくなっている。また、入浴では機械浴対応が多く、介助の負担も大きくなっている。

#### (2) 機能回復訓練

- ① 活動性の高い方には、座位での四肢の屈伸運動(集団での体操を含む)、手すりや平行棒を使用した立ち上がり動作訓練を中心に、平行棒内や廊下での歩行訓練、片脚立位訓練を状態に応じて実施した。
- ② ベッドで過ごす時間の長い方は四肢・体幹の筋力訓練と、他動運動・ストレッチ訓練を行った。また、筋緊張を緩和し、拘縮進行と褥瘡予防の為に臥床姿勢や座位姿勢の調整(ポジショニング)を実施した。
- ③ 動作の介助(特に起居・移乗動作)では介護士と機能訓練指導員が協同で動作の評価を行った。立ち上がる前に足を引く、体幹を前傾させてから立ち上がるといった、「身体機能を維持するための介助」に取り組んでいる。また、これまではできていた動作が難しくなった方へは本人と介助者の双方に負担の少ない介助方法を検討し、スライドボード等福祉用具の導入も含めて実施した。
- ④ ショートステイでのリハビリの強化を図り、食前の体操を今年度も引き続き実施した。計 144 回実施、延べ参加人数 738 人。利用者同士の交流の場にもなっている。

#### <機能回復訓練実施状況>

(延人数)

平成・年度		令和元年度	30年度	29年度
内容	歩行訓練	22	44	86
	立位バランス訓練	103	101	92
	上肢機能訓練	1,131	1,082	758
	下肢機能訓練	1,681	1,795	1,541
	体幹機能訓練	791	972	579
計		3,728	3,994	3,056

#### (3) 余暇活動

利用者の声を聴き、桜の時期のほか随時団地内の散歩や買い物などを支援しているが、日常の介護に追われることが多く、十分な対応はできていない。ショートステイではドライブ、折り紙、カラオケなど利用者の希望に応じた企画が引き続き好評で、利用中の楽しみとなっている。

#### (4) 行事

これまでフロアごとに実施していたが、サービス向上委員会の中で検討し、相互に参加できるようにした。それにより利用者の参加機会が増え、職員の連携も生まれている。また例年参加しているふれあい寄席などの他、今年度より地域の保育園との交流を積極的に行い、利用者にも好評であった。

#### (5) 利用者の健康管理

総括リーダーを要として、看護師、医師、介護士との連携が強化された。日常的な観察を重視し、また、褥瘡や感染症の予防等も含め、多職種とのカンファレンスを行い早期対応、早期治療を心がけた。看取り対応は4名行い、1名は継続中。その都度家族との話し合い、嘱託医、病院との連携を行った。

インフルエンザの感染者は1名のみだったが、新型コロナウイルスの感染予防のため環境整備、消毒等を強化している。

#### <入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
令和元年度	100	1,264	12.6
30年度	112	1,635	14.6
29年度	99	1,265	12.7

#### (6) 食事

献立は季節の食材やメニューを取り入れ、話しのきっかけになるような地域メニューも取り入れた。また、月に一度主菜の選択食を実施した。苦手な方が多い青菜をはじめとした緑黄色野菜は、引き続き提供方法を工夫し、喫食率の向上に努めた。また、栄養状態が低下している方には、必要に応じて個々に合わせた栄養補助食品を提供し、なるべく負担が少なく栄養が摂れるようにした。

#### <食事形態の状況>

(実人数:人)

	ペースト	極刻み	刻み	粗刻み	一般食	経管栄養
元年度末	15	13	27	11	5	5
30年度末	18	17	21	11	5	3
29年度末	16	18	19	18	6	3

### 4. 会議・研修

#### (1) 研修

法人の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都社会福祉協議会の研修等へ参加した。また現任研修では、委員会等と関連する研修を実施し、特に虐待防止や身体拘束廃止については、年間を通じて複数回実施した。特に品川介護福祉専門学校からの講師派遣で実施した権利擁護・虐待防止研修は、現場に即した内容で好評であった。

#### (2) 会議・委員会活動

法人内特養の生活相談員連絡会を実施し、稼働率向上その他の課題解決に取り組んだ。また役職者連絡会、委員会活動（事故防止、身体拘束廃止、感染症対策、褥瘡予防、虐待防止）等のほか、随時ケースカンファレンスを開催した。また、収支改善に向けての会議も月1回開催し経費の見直しをしている。

### 5. 家族・地域との関わり

#### (1) 家族との連携

4月と9月の2回、事業説明会を実施した。4月は昨年度の事業報告および新年度の計画を中心に説明した。9月は上半期の報告と介護報酬改定についての説明を行った。いずれの会でも、施設での利用者の様子をスライドショーで見てもらい、

家族に日常生活の様子を伝えるように配慮した。2月末より新型コロナウイルスの感染予防のため面会自粛をお願いしている。

<面会・外出状況>

平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
面会延べ人員	4,903人	7,410人	7,128人

(2) ボランティア

介護補助、レクリエーション等について受け入れを実施した。今後も利用者に対する方針や施設の状況を理解して頂き、ボランティアの受け入れを進めていく。

<活動状況>

(延べ人数)

平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
ボランティア	312人	264人	235人

(3) 実習生

実人員1人(昨年度1人)、延べ日数は40日(昨年度10日)の実習生(社会福祉士)を受け入れた。

(4) 地域社会との交流の推進

地域開放事業の利用調整会議、八潮地区防災協議会に定期的に参加し、八潮南地区の総合防災訓練や美化運動にも参加している。こみゆにていプラザの災害緊急時の管理体制の一環として当施設で鍵を預かり、地域防災訓練を協働で行っている。

6. 短期入所生活介護事業(ショートステイ)

(1) 実施概要 ・定員19名 居室 1階多床室(4人)4部屋・個室3部屋

利用申し込みが減少しており、緊急利用も積極的に受けたり、在宅介護支援センターへの営業も実施したが、目標稼働率に到達することができなかった。サービス向上に向けては、帰りの送迎を家族の同乗なく職員付き添いで行うことを開始した。

(2) 利用実績

平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
延べ日数	4,702日	5,189日	6,078日

(3) 稼働率

平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
稼働率(%)	67.6	74.8	87.7

7. 防災

防災センター(ビル管理業者に委託)と連携し、毎月1回、消火機器の取り扱い・避難誘導・消火活動等の総合防災訓練を複合施設として実施した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等(開設9年経過)

修繕・改修関係	プレート式熱交換器、EV内床張り替え、業務用洗濯乾燥機、汚物除去機、居室タンス修理、エアコン室外機等
備品購入関係	離床センサー、介護用ベット、業務用冷蔵庫買い替え、洗濯機、乾燥機買い替え、防災用ランタン、移動式手すり、食事用トレイ等

## 令和元年度 グループホーム八潮南事業報告

### 1. 総括

日常の支援では、継続して「共に生活する」ことを意識し、買い物から食事作り、洗い物までの流れを分担して行う。それが難しい利用者には意見を述べる機会を作る等の支援を行った。また、両ユニット合同での体操を実施し、書道は師となる利用者に定期的実施してもらい、余暇や機能維持に努め、利用者の楽しみにつながっている。

事故については、主に転倒による骨折が3件、服薬関係が7件発生した。その他、ひやりはっと報告を含む事故報告は73件であった。事故報告についてはその都度ユニット中心に検証をし、特に服薬については再度マニュアルの作成を行い、再発防止に努めた。

感染症については、消毒や加湿、エアコンのクリーニングを行い、衛生管理面の対応を強化し予防に努めたため、利用者のインフルエンザ等の感染症の発生はなかった。

入居者状況としては、令和元年度は3名の退去、4名の入居があった。3名の退居理由について1名が事業所内でのご逝去（看取り）、1名は長期入院、1名は療養型への移行であった。看取りケアを行った1名については、本人、ご家族の意向を伺い、ご家族、訪問診療医、訪問看護師、介護士が連携し、ご本人が安楽に過ごせるようにケアを行った。

ユニット間で介護状況に差が出ており、北ユニットは身体介護が増え、食事もペースト食や刻み食等の準備が増えており、今まで以上に職員の支援が必要な状態となっている。（全体平均介護度 2.8、北ユニット平均介護度 3.3、南ユニット平均介護度 2.3）

福祉サービス第三者評価が実施されたが、新型コロナウイルスの関係で報告が遅れており、結果報告は次年度へ繰り越しとなった。また、品川区指定管理の事業運営調査も実施された。

職員関係においては、疾病により夜勤を行えない職員が1名、体調不調による長期休養の職員が2名、9月と1月に1名ずつ職員が退職し、1名のみの補充であったため、他職員への夜勤や超過勤務などの負担が増加した。

稼働率については、骨折による入院と退所後の空床期間が開いてしまったことが稼働率低下に繋がった。

#### (1) 利用者状況

<要介護度> (令和2年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	3	5	5	2	3	18

・平均要介護度 2.8 (平成30年度 2.3)

<年齢> (令和2年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	0	1	1	0	2	0	4
女	0	2	1	4	3	4	0	14
計	0	2	2	5	3	6	0	18

・平均年齢 85.0歳 (30年度 86.4歳) ・最低年齢 71歳 ・最高年齢 98歳

## (2) 稼働率

平成・年度	令和元年度	30年度	29年度
稼働率 (%)	94.0	95.8	92.9

## 2. 援助計画

### (1) 日課・週課

継続して生活の流れが途切れることなく、個別ニーズに合わせ、安心して共同生活ができるように支援した。また、地域の一員として社会とつながって生活ができることを目指した。ご利用者やご家族の希望もあり、両ユニット合同で体操（みんなの体操、品川体操等）を行い、筋力維持に努めた。

### (2) 行事

お花見、ゆず湯、お正月、節分、ひな祭りなどの季節行事をユニット単位や合同で行った。また、保育園の訪問や生け花等、特養と合同で参加する行事が増え、交流を図った。例年通り八潮地区のフェスティバルやお祭りにも参加した。

### (3) 利用者の健康管理

嘱託医（内科・精神科医）の隔週の訪問診療を基本とし、日常的な健康管理を行った。また、必要な方には、訪問歯科を依頼している。

訪問看護や居宅療養管理指導における薬剤師がはいることで、医師との連携が取りやすくなった。

### (4) 食事

毎日の食事は入居者の意見を聞き、買い物や調理、片付け等を、入居者・職員と共に行っている。入居者の誕生日には、好きなものをリクエストしてもらい、店屋物等も活用し、楽しみのひとつとなっている。また、身体の状態に応じて、飲料にとろみをつける、ミキサーにかける、介護食を取り寄せるなど、食べやすく工夫して提供している。

## 3. 会議・研修

### (1) 研修

法人主催の職員研修、品川福祉カレッジへ参加した。外部研修等については、東京都認知症介護実践者研修他、人権研修や認知症について各種案内に基づいて参加している。

### (2) 会議・委員会活動

毎月1回の職員会議のほか、サービス向上委員会として認知症ケアについて取り組んだ。身体拘束防止委員会、虐待防止委員会も定期的実施した。定例の運営推進会議を奇数月に計6回開催し、家族や地域関係者にグループホームの生活状況を知らせ、情報交換の機会としている。

#### 4. 家族・地域との関わり

##### (1) 家族との連携

5月と9月に、事業説明会を実施し、事業経過報告などを行った。また、面会時には本人の状況や医療面の対応について説明し、家族からの意見を聴取してきた。運営推進会議においても家族と施設、関係機関との接点を重視し、要望等を細かく聞いている。第三者評価、品川区指定管理の事業運営調査にて利用者調査として家族アンケートを実施した。

##### (2) ボランティア

ほたる鑑賞や歌の会を実施し楽しんでいる。今後も入居者に対する方針や施設状況の理解を進め、利用者の生活につながるボランティアの受け入れを進めていきたい。

##### (3) 実習生

実人員2人（昨年度3人）、延べ日数10日（昨年度15日）の実習生（介護福祉士）を受け入れた。

##### (4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業や、八潮団地内の行事や美化運動に参加した。図書館なども利用し、地域とのつながりを重視した。散歩や買い物に出かける際に声をかけてくれる住民もいて、今後も地域の一員として良好な関係を築いていきたい。

#### 5. 防災

防災センター（ビル管理会社に委託）と連携し、特養と合同の毎月1回の総合防災訓練を実施した。

#### 6. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設9年経過）

修繕・改修関係	エアコンクリーニング、洗濯機、プリンター
備品購入関係	テレビ、洗濯機、乾燥機、オゾン発生機、介護用ベッド、配薬カート



# 令和元年度 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告

## 1. 総括

「必要な人に、必要なサービス」を念頭に置き、個別対応を重視したケアに力を入れた。適切なアセスメントにより「利用者を知る」ことから始め、本人のニーズに合わせた対応を取ることを心掛け、サービスの提供を行った。必要なサービスの内容は様々であるが、利用者の意欲や身体機能の向上に大きな影響があった。そのため家族の介護意欲も向上し、介護負担の軽減にも繋がっている。

認知症対応型通所介護では、様々に BPSD(認知症周辺症状)のある方を受け入れてきた。「その人を否定することなく、その人自身を人として受け入れる」姿勢を持ち、新たな利用者には、まずは通所することを第一目標にサービスを開始している。通所介護同様、利用者を知ることに努め、適切かつ必要なアセスメントを行い、通所介護計画を作成し、チームケアを実践した。少人数での活動であるため、事前に活動プログラムを決めることなく、その日の状況に合わせ職員と活動を行っている。

一般デイサービスにおいて共生型生活介護の指定を受けているが、当年度の受入実績はなかった。

### 利用者状況 (1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ)

	令和 元年度			平成 30 年度			平成 29 年度		
	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症
合計	5,211	2,642	1,902	5,723	1,907	2,093	4,652	929	2,216
実施日数	309	309	309	307	307	307	308	308	308
1日当り利用者数	16.9	8.6	6.2	18.6	6.2	6.8	15.1	3.01	7.19
稼働率	78.3%		51.3%	76.2%		56.5%	77.7%		60.9%

・ 目標稼働率を一般デイは 78%、認知症デイを 60%としたが達成できなかった。

\*定員：一般デイ 35 名、認知症対応型デイ 12 名

- ・ 新規の利用者は要支援者、事業対象者が目立っているが、要介護新規申請や利用終了等により実利用者数の変動は少ない。しかし、総合事業の週 2 回の利用者が増えているため延べ利用者数は増加している。
- ・ 利用終了の理由としては施設入所が多い 1 年だった。認知症対応型通所介護では特別養護老人ホームへの入所が多く、その他では有料老人ホームへの入所が目立っていた。特に要支援者、要介護 1 の方の施設入所が多く見られた。

・登録者数内訳(要介護度別・人)

2.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	元年度			30 年度			29 年度			元年度			30 年度			29 年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象	0	3	3	0	5	5	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援 1	2	11	13	2	14	16	0	14	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	7	12	19	5	11	16	3	14	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0

要介護1	8	11	19	6	21	27	8	17	25	0	7	7	0	4	4	1	6	7
要介護2	3	8	11	5	12	17	7	7	14	1	1	2	1	3	4	1	1	2
要介護3	3	10	13	1	8	9	1	6	7	0	3	3	0	3	3	1	3	4
要介護4	0	3	3	1	4	5	0	2	2	0	2	2	1	4	5	1	5	6
要介護5	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	3	3	0	2	2	0	2	2
合計	14	33	47	13	46	59	16	34	50	1	16	17	2	16	18	4	17	21

(2) 介護保険外サービス（訪問給食/通所サービス）

訪問給食サービスは平成30年度から休止、通所サービス（入浴・給食）も該当者なく、全て介護保険サービスにて受入を行う。

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	4月29日（月）～5月3日（金）	108
バスハイク	6月15日（土）	15
くつろぎ祭り	台風のため中止	0
外出行事	11月11日（月）～12月13日（金）	97
ゆず湯	12月16日（月）～12月20日（金）	116
餅つき	12月28日（土）	21
新年会	1月4日（土）～1月10日（金）	197
豆まき大会	2月3日（金）	28

バスハイクは江戸東京博物館へ。外出行事は下記の内容で実施。

- ① 喫茶・軽食：華屋与兵衛、デニーズ
- ② 散策：皇居、国立競技場、オリンピックセンター他

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 連絡ノート等を活用し家庭での様子・利用中の状況を互いに把握するよう努めた。活動状況については、写真を多用し利用者の状況が詳しく伝わる事を意識した。
- (2) 行事、日常生活の支援等にボランティアを積極的に受け入れた。
- (3) 祭礼行事や、防災訓練、清掃活動等を通して、地域の方との交流を深めた。
- (4) 複合施設全体として地域開放事業「もちつき」を実施している。

「もちつき」、は防災炊き出し訓練と合わせての実施であることを明確に位置付け、来場者には当施設の機能(福祉避難所・AED設置・こども110番等)を案内した。

※「くつろぎ祭り」は、台風のため中止となる。

5. 「身近でトレーニング」利用者数実績

1年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	30年	29年
実施回数	13	14	9	14	13	9	13	13	11	12	11	0	132	192	146
登録利用者数	39	39	39	39	39	39	38	38	38	38	38	0	424	683	414
延べ利用回数	151	157	92	136	121	87	134	128	110	129	115	0	1,360	2,110	1,301

3月はコロナウイルス感染予防のため休止

# 令和元年度 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告

## 1. 総括

- ・品川区からの委託事業として軽度認知症支援プログラムを実施し、効果的なサービス提供に勤めている。
- ・新規利用や増回などや、変則的な利用希望等にもできるだけご本人および家族の希望に添うようにし、ケアマネージャーとの連携にも努め、稼働率の向上を図った。
- ・施設入所や体調不調による入院等と、年度末の新型コロナウイルス感染予防のため一部利用者より自主的に長期欠席者が出て、目標稼働率には及ばなかった。
- ・利用者状況としては、以前に比べて要支援（総合事業等）の方の利用が増える傾向があり、要介護度の重い要介護4・5の利用が入院や施設入所・ご逝去が続き減少している。
- ・職員体制は年度初めに非常勤職員の退職により、その補充ができず年末に非常勤職員1名と契約職員を1名増員した。その後も年度末に別の非常勤職員の急病により入院となり復帰難しく結果退職となった。
- ・リハビリ実施については安定し実施できている。

## 2. 利用者状況（1）介護保険サービス

年間利用者数及び稼働率（一般、総合事業・予防、対象外） 2.3.31現在

	令和元年度			平成30年度			平成29年度		
	一般	総合	対象外	一般	予防	対象外	一般	予防	対象外
男性	1,454	493	0	1,916	356	0	1,749	368	0
女性	3,801	1312	0	4,524	762	0	4,483	737	0
合計	5,255	1,805	0	6,448	1,118	0	6,232	1,105	0
実施日数	305	305	0	307	307	0	308	308	0
1日の人数	17.2	5.9	0	21.0	3.6	0	20.2	3.5	0
稼働率	71.2			75.7			84.1		

登録者数内訳（要介護度別） 2.3.31現在

	一般デイサービス								
	令和元年度			30年度			29年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	2	2	4	1	2	3	0	1	1
要支援1	1	5	6	3	6	9	2	8	10
要支援2	2	11	13	3	14	17	1	1	2
要介護1	6	9	15	5	7	12	10	16	26
要介護2	3	3	6	3	16	19	7	10	17
要介護3	6	5	11	5	10	15	14	11	25

要介護 4	0	3	3	6	4	10	2	6	8
要介護 5	1	3	4	2	3	5	2	5	7
合 計	21	41	62	28	62	90	38	58	96

(2) 介護保険外サービス（訪問給食／通所給食）

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
食数	1,280	1,541	1,428
実施日数	308	307	308
1日あたりの利用者数	4.2	5.0	4.6

3. 援助経過

年間プログラム 行事名	開催日	参加人数 (利用者参加数)
外出行事（ソラマチ）7回実施	10/8～12/4	26名
カフェぽっかぽか	7月27日	38名(23名)
ぽっかぽかクリスマスコンサート	12月21日	40名(21名)

4. 家族、社会との関わり

- (1) 家族へは連絡ノートや電話による状況報告を実施している。また、支援センターにも適宜、連絡・報告をして連携を図っている。
- (2) 介護者教室は正しい薬の飲み方や口腔ケア等について、専門職による講義等を4回行った。3月予定していた認知症ケアについては新型コロナウイルス感染予防のため自粛指示により中止となった。
- (3) ボランティアは、サークル活動、企業ボランティア等が入っている。ボランティアによるイベントも多く開催できた。
- (4) 地域開放事業として、12月に「クリスマスコンサート」を実施し、また、「カフェぽっかぽか」を7月・2月実施予定だったが、2月は新型コロナウイルスのイベント自粛の指示により急遽中止となった。

5. 介護予防事業

「マシンでトレーニング」の利用者は、前期・後期共に定員10名で実施だが、年間では延べ347人の利用となっている。年度末の3月以降新型コロナウイルスの感染予防のため区内全ての介護予防事業は中止となった。

6. 防災

毎月支援センターと合同で防災訓練を実施した他、年2回「サンかもめ」と、例年3月実施の「八潮わかくさ荘」も含めた総合訓練は新型コロナウイルスの感染予防のため実施できなかった。

7. 設備関係

厨房の食洗器を故障により交換した。その他利用者用トイレプライバシーを確保するため、トイレ仕切りとドアを設置した。

# 令和元年度 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告

## 1. 総括

- ① 一般通所介護では30年度休止していた土曜日を再開する事が出来たが、休止前の土曜日登録人数に戻すことが出来ず（6割減）、大幅な減収となった。
- ② 通所介護の要介護の方と、認知症対応型通所介護の方の利用が大幅に減少した。
- ③ 生活相談員が9月末で退職し、営業活動に影響が低迷し、稼働率が前年度を大幅に下回った。
- ④ 趣味活動の充実、要介護対象者には楽しんで行えるリハビリ体操を提供し、本人や家族のニーズに対し、きめ細やかな対応に努めた。
- ⑤ ボランティア依頼を積極的に行い、サークル活動を充実させた。演芸系のボランティア来所時は、近隣の認知症共同生活介護施設の利用者をお招きし、地域交流を行った。
- ⑥ 認知症軽度者プログラムについては、職員が研修を受講した後、職員間で情報を共有した。当センターでは認知症対応型通所介護があり、通所介護とのシームレスな移行が可能であり、認知症の方もそうでない方に対しても、その方が持っている可能性に対して、一番適切なサービスとケアを実践した。
- ⑦ 認知症対応型通所介護では、引き続き身体機能能力の高い方を対象とし、残存機能の活用のため趣味活動の充実と、利用者の願いを活かした活動を目指した。また、身体能力の維持のため散歩等を実施し、筋力維持に努めた。
- ⑧ 稼働率向上のため、リーフレットの刷新をするとともに事業内容宣伝のため、インターネットを活用したFacebookやInstagramへの事業内容写真の掲載を新たに始めた。

## 2. 利用者状況

### (1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) 2.3.31 現在

	令和元年度			平成30年度			平成29年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
総計	5,116	1,383	1,698	5,470	1,468	2,588	6,426	1,517	2,640
実施日数	309	309	309	265	265	307	304	304	308
1日当りの利用者数	16.6	4.4	5.5	20.6	5.5	8.4	21.1	4.9	8.7
稼働率(%)	65.1%		46.1%	80.2%		51.8%	94.4%		73.5%

・登録者数内訳 (要介護度別)

2.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	元年度			30年度			29年度			元年度			30年度			29年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要支援1	0	4	4	2	6	8	2	8	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	4	8	12	3	11	14	2	6	8	0	1	1	0	1	1	0	1	1
要介護1	11	23	34	16	23	39	14	20	34	1	2	3	2	5	7	1	8	9

要介護2	8	8	16	3	6	9	3	9	12	0	4	4	0	2	2	2	7	9
要介護3	5	5	10	1	2	3	3	5	8	0	3	3	0	2	2	0	0	0
要介護4	3	2	5	1	4	5	0	3	3	1	2	3	0	2	2	0	3	3
要介護5	0	1	1	0	1	1	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0
事業対象者	1	5	6	0	3	3	1	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	32	56	88	26	56	82	26	56	82	3	13	16	2	12	14	3	19	24

- ・契約者人数は増えているが、週複数回利用の方が減り、稼働率が昨年比で一般デイが15.1%、認知症デイが5.7%減少した
- ・一般デイと認知対象型デイは延べ人数が減少しているが、総合事業で利用される方はほぼ横ばいである。
- ・年度途中で事業方針を変更し、軽度者や虚弱な高齢者、また認知症の方への対応として作業療法士を採用し、維持期・生活期のリハビリを含む、個別の対応を開始した。

### 3. 援助経過

#### 年間プログラム

行 事 名	開 催 日	参加人数
菖 蒲 湯	5月1日～7日	128名
ゆ ず 湯	12月16日～21日	112名
節 分	1月中旬～2月3日	期間中のご利用者すべて

上記行事の他、外出行事も実施した。

- ① 敬老を祝う会：令和元年9月16日～21日（期間中のご利用者すべて）
- ② もちつき：令和元年12月20日（32名参加）
- ③ クリスマス会：令和元年12月24日～25日（58名参加）
- ④ 初詣：令和2年1月6日～1月7日（12名参加）
- ⑤ 花見ドライブ：中止

#### 4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 電話、連絡ノート等を活用し介護士・看護師が家族等と密に連絡を取るように努めた。
- (2) 利用中の御家族への事業者説明会を実施し、認知症通所介護においては町会長や民生委員の方々をお呼びし、運営推進会議を2回実施した。

#### 5. 介護予防事業

参加者の低迷から、事業を休止している。

#### 6. 防災

毎月1回定期的に火災想定訓練又は地震想定訓練を行い、年に1回、高齢者住宅わかくさ荘との合同避難訓練を実施した。また、消防署職員の立ち会いをしていただいた。

#### 7. 設備関係

- ・建物や備品等の老朽化に対しては、給湯管の交換、自動水栓の交換を行った

# 令和元年度 在宅介護支援センター事業報告

## 1. 総括

- (1) 地域包括支援センターの機能 ア) 総合的な相談窓口・権利擁護機能 イ) 介護予防マネジメント ウ) 包括的・継続的マネジメント 等について、品川区高齢者福祉課と連携し、一人ひとり丁寧に対応してきた。特に盛夏には高齢者の熱中症の予防策として、水分補給の重要性を伝えると共に必要に応じ経口補水液を配付しつつ、個別の状況把握に努めた。
- (2) (地域型) 在宅介護支援センターとして、各地域に生じている福祉ニーズを把握し個別相談を進めるとともに、総合的な地域福祉力の向上を図るよう関係機関と連携した。特に医療機関や民生委員との関係向上を図り、認知症サポーター養成・見守りネットワークの構築などのほか、防災関係の情報提供や、緊急時の不安を解消できるよう地域づくりに力を入れた。
- (3) 居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、利用者・家族に対して適切なアセスメントを実施した。そのことに基づき、一人ひとりに対して公正中立で利用者本位のケアマネジメントを実施した。
- (4) 認知症高齢者の対応や高齢者虐待の防止および成年後見制度の活用等について、適切な支援につながるよう高齢者福祉課や各関係機関とも連携を図った。また、入退院時のサービスに係る連絡調整・施設入所に関する相談や手続き代行など、在宅生活の継続や適切な施設利用につながるよう調整に努めた。
- (5) 大井在宅介護支援センターに区の指導検査が入り、運営基準違反があったことから、法人内すべての在宅介護支援センターの書類チェック、在宅介護支援センター職員全員を対象にコンプライアンス研修を実施し、職員配置の変更と研修体制の整備、管理者の教育、職員の業務チェック体制を整えることを品川区に報告した。

## 2. 地域づくり等

- (1) 八潮在宅介護支援センターでは、地区ケア会議の中で事例検討の機会を多く持ち、多職種の参加もあり個別の課題から地域の課題まで広く検討することができた。認知症サポーター養成講座の他、図書館カフェやオレンジカフェなど実施・参加協力している。次年度も引き続き、自治会との連携の他、民間事業所との協働を進め、地域活動の推進を図っていく。
- (2) 中延在宅介護支援センターでは、障害者の相談を受け付ける事業所として、「品川区中延障害者計画相談支援事業所」が令和元年12月より併設された。心身障害者福祉会館からの引継ぎケースを中心に順調に持ち件数を増やしており、同事業所の相談支援専門員が支援センターの地区ケア会議にも出席、併設の支援センターの会議にも参加し協働体制を構築している。
- (3) 大井・大井第二在宅介護支援センターの地区ケア会議において、事例検討の機会を多く持ち、個別の事例から地域の課題までを考える内容を充実させた。また、例年行っている地域づくりも並行しておこない、地域との連携の強化も図った。認知症サポーター養成講座は、近隣の西大井在宅介護支援センタ

一と協同して年間5回行い、そのうち大井三丁目高齢者憩いの場において1回実施した。認知症サポーターレベルアップ事業も上記の場所にて実施し好評であった。

### 3. 支援経過（支援実績）

#### 支援内容

	元年度	延 件 数			
		八潮	中延	大井	大井第二
相談内容	利用者宅訪問	2,342	6,906	1,554	2,398
	計画書配布	629	1,038	471	670
	利用票配布	1,735	2,072	1,013	1,533
	担当者会議	476	972	492	599
	担当者照会	123	174	28	110
	モニタリング	2,806	5,647	2,042	3,676
	医療連携	6	41	0	18
	退院退所面談	5	14	1	17
	小規模多機能連携	0	1	0	2
	連絡・調整	324	1,514	523	704
	ターミナル訪問	0	0	0	2
	合 計	8,446	18,379	6,124	9,689

#### 夜間、休日相談

	件数		
	夜間	休日	合計
八潮	29	7	36
中延	4	4	8
大井	1	1	2
大井第二	3	2	5

#### 給付管理件数（令和元年度）

	件数		
	介護給付	予防給付	総合事業
八潮	1,790	850	706
中延	2,000	1,226	1,272
大井	993	471	565
大井第二	1,514	749	681

# 令和元年度 品川区中延障害者計画相談支援事業所事業報告

事業開始 令和元年 12月 1日

## 1. 総括

- (1) 事業開始初年度として、地域拠点相談支援センターである品川区障害者生活支援センターからのケースの引継ぎを重点的におこない、介護保険への移行期にあたる利用者を中心に受け入れた。
- (2) 個人情報、併設の在宅介護支援センターに準じて持ち出し簿の使用等について適正な管理をおこない、法令遵守を徹底した。
- (3) 高齢者施策との連携推進として、障害サービスと介護保険サービスを併用している利用者の支援に際して、併設の中延在宅介護支援センターの介護支援専門員と協力し、1名の利用者に対して2名の担当で、それぞれのサービス計画の作成やサービス調整を分担して、相談支援事業を実施している。
- (4) 虐待ケースへの対応として、品川区障害者福祉課と連携する一方で、施設入所した利用者が介護保険サービスへの切り替え時期にあたるため、高齢者福祉課とも連携し、切れ目のないサービス提供のための支援も並行しておこなっている。
- (5) 障害者の外出の支援マネジメント（社会参加の機会の確保）として、老障介護のケースにおいて、夜間のサークル活動への参加を促した。
- (6) 社会で生活するための能力を高める支援として、精神障害者に併設の中延特別養護老人ホーム内喫茶の補助や植木の水やりといった活動をおこなって頂いている。

## 2. 会議・研修

- (1) 開設前より品川区障害者福祉課主催の会議に参加し、区内の障害相談事業所や高齢者福祉課とも情報共有をしながら事業を進めている。
- (2) 併設の在宅介護支援センターの会議にも参加し、介護保険関連の情報や事業所の取り組み内容等を共有している。また、在宅介護支援センターが開催している地区ケア会議にも参加し、ケース検討や地域課題の抽出等を一緒におこなっている。
- (3) 障害・高齢両方の研修に参加している他、主任相談支援専門員となるための厚生労働省の研修にも参加した。今後は区内の相談支援専門員のスーパーバイズをおこなうことも視野に入れている。
- (4) 品川区介護支援専門員連絡協議会（通称ケアマネットしながわ）の障害ケアマネジメント部会にも参加し、研修として介護支援専門員に対して障害サービスの概要を講義する等の活動をおこなった。

## 1. 相談支援を利用している障害者等の人数

	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	計
障害者	46	0	38	3	1	7	1	96

## 2. 支援方法

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	49	2	4	4	1	0	33	0	120

## 3. 計画相談件数

	新規作成	更新作成	モニタリング	計
件数	25	0	4	29

\* 上記の表は令和元年12月～令和2年3月分の合計

# 令和元年度 八潮わかくさ荘事業報告

## 1. 総括

八潮わかくさ荘は、4～8階の40戸の単身者用高齢者住宅の管理及び緊急時の対応を行なった。平均年齢82.2歳、要介護認定又は事業対象者の認定を受けている方が9名おり、内8名がヘルパー派遣等の介護保険サービスを利用している。1年間に退居した方は4名、新入居者は8名と昨年度に比べ多かったが、11月以降は満室になっている。

今年度の新規入居者については90代後半の方が2名続いたものの、日常生活においては自立している方が多く落ち着いている。また、同一建物にあるデイサービスで実施している通所介護や配食、通所給食の利用の他、介護者教室や介護予防事業等への参加もあり、連携した対応ができています。

夏場に熱中症予防を掲示や声掛けで呼びかけていたが、居室内で逝去し12時間生活リズムセンサーで発見された方がいた。また、台風の影響によるエレベーター内被水により1日停止することがあったが、周知徹底し混乱もなかった。食料の無い方については職員が買い物などの援助を行った。

## 2. 入居者状況

入居者の心身状況の変化に伴い、日常生活についての相談やサービス調整等に支援センター、区、各関係機関と連携した。また、昼夜にわたって様子伺いを実施するなど、デイサービス、支援センター、ワーデンが一丸となって対応を続けている。3月末現在入居者40名、内要介護認定、事業対象者は9名となっている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉

令和2年3月31日現在

	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食
令和元年度	3名	4名	2名
平成30年度	2名	4名	2名
平成29年度	2名	4名	3名

## 3. 設備管理

建物の老朽化が進んでおり、各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。

## 4. 防災訓練

60号棟との合同防災訓練、八潮地区総合防災訓練については参加。八潮在宅サービスセンター、支援センター、サンかもめ合同の総合防災訓練は新型コロナウイルス感染予防のため不参加とした。

## 5. その他

ワーデン業務については、非常勤職員3名を雇用し対応していたが、令和元年12月よりワーデン1名が退職し、欠員が補充できるまで職員が宿直業務に入った。



## 令和元年度 大井倉田わかくさ荘事業報告

### 1. 総括

大井倉田わかくさ荘は、2階建て建物の1階部分計8戸の小規模な単身者用高齢者住宅である。この住宅の管理は、夜間、保障会社による、生活動作確認・非常通報・火災検知を24時間機械警備で実施した。平日の昼間は同敷地内に隣接する大井在宅サービスセンター（在宅介護支援センター）が、様々な相談を受けている。

基本的には自立・自活されている高齢者が入居しているが、8名中、3人が要介護認定を受けそれぞれ介護サービス受給及び住宅改修を行っている。

### 2. 入居者状況（令和2年3月末現在、8名入居）

- ・骨折で長期入院後、ご本人は在宅復帰を願っていたが、自宅前で再び転倒されたため施設入所を決断され退去されている。
- ・腰痛で入院後に単独外出や自宅での家事が困難となったため、在宅介護サービスで日々の生活を支えている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉

令和2年3月31日現在

ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食
3名	3名	0名

### 3. 設備管理

各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。消防設備の点検（年間2回）を実施した。敷地内清掃を毎月実施。

### 4. 防災訓練

サービスセンターとの避難訓練（9月24日）に参加を呼びかけた。当日はわかくさ荘居室からの出火想定とし、8名中1名の参加があった。

### 5. その他

警備会社の警報発報による出動が32回あった。

点検結果	出動回数
非常通報	8回
ライフリズムセンサー（生活動作確認）	11回
火災警報	2回
その他（システムエラー等）	11回

そのほとんどが、トイレドアの開け放し及びトイレ未使用により発報が起きている。また、腰痛で外出困難となった方が夜間緊急ボタン（警備会社の直結の）を押してしまい、出動が増えている。



# 令和元年度 大井三丁目高齢者憩いの場事業報告

## 1. 総括

地域包括ケアシステムの方針である、『いつまでも、住み慣れた地域で暮らす』という在宅完結ケア型を指向し、地域で助け合いながら安心して、ゆとりある老後を過ごせる『ともにいきるまち』の小さな拠点づくりを進め、地域住民、ボランティア、関係機関等が「参加」「話し合い」「協働」し合う福祉拠点運営をすすめた。

平成 29 年度開設から 3 年目となり、高齢者を中心に多世代交流を進める地域の福祉拠点づくりを目指し事業を進めた。事業は小規模な施設を最大限活用し、「誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場」作りを品川区社会福祉協議会と連携して進めた。

29 年 10 月から開始した地域ミニデイもボランティア等の活動を盛り込み軌道に乗っている。9 月には地域交流事業（こすもすパーティー）を実施、多くの地域住民の来場を得た。

当事業の実際の運営に専属職員はおかず、法人内事業所からの委員により運営委員会を組織し、事業を企画、準備、分担、実施してきた。その過程で地域のボランティア、関係機関の協力を得て事業に厚みが加わり、さらに地域交流が進んだ。

## 2. 重点目標

- ・安心して生き生きと住み続けられる『ともにいきるまち』の創造
- ・住民同士の相互交流が進み、生きがいを育む活動やコミュニティの形成
- ・多世代交流を進め、共助が自然と身につくまちの小さな拠点づくりの推進

## 3. サービス・事業内容

### (1) 地域の高齢者や障害者、子育て世代等の憩いの場・交流の場

- ①ほっとサロン：品川区社会福祉協議会登録団体に部屋を貸し出し、外出機会の少ない高齢者を中心とした多世代の地域交流の場とした。
- ②縁側カフェ等を通じて、会話の機会の乏しい高齢者等が、定期的に外へ出ていくことのできる場、会話を楽しみ、安心してくつろげる場を提供し、閉じこもり防止、生活活性化等の介護予防・自立支援を促進した。
- ③園芸療法を用いて、菜園を利用した土いじりや草花や野菜などの園芸活動や、身の回りにある自然との関わりを通して、心身の健康維持、回復を目指した。
- ④家族等を介護している同士のコミュニケーションを促進し、リフレッシュを行うことのできる集いの開催。
- ⑤毎月第 2・4 土曜日、「ひなたぼっこ」と銘打ち多世代交流のワークショップを開催、創作活動、料理教室を通じ、高齢者や子どもたちが集い、

楽しみ自然な福祉教育の機会となっている。

⑥ピンコロ道場は、平成31年3月より地域ミニデイ事業の卒業生の行き場作りとして、健康体操を中心に月曜日の午前中に開催した。

⑦9月に地域交流事業「こすもすパーティー」を開催、近隣地域住民との交流の中から、福祉ニーズを検証する機会、高齢者福祉啓発の機会とした。芋煮、たこ焼き等のおもてなしコーナー、地域交流・事業啓発として園芸療法紹介、マッサージ体験他を行った。

(2) 介護予防事業

- ・地域ミニデイの開催

介護予防・日常生活支援総合事業としてボランティアによる地域ミニデイサービスを実施、健康作り体操等高齢者の介護予防を進めた。

(3) ボランティア講座

- ・「介護医療に役立つ初めてのアロマセラピー」

令和2年2月29日(土)

参加者人数 18名

(4) その他

- ・夏期は品川区の「避暑シェルター」事業による水分補給の場として多くの区民の利用があった。

※ 3月は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため休館

事業名	開催回数	利用者数(人)		備考
		令和元年度	30年度	
縁側カフェ	91	662	696	
園芸療法	36	187	233	
地域ミニデイ	46	265	352	
ピンコロ道場	36	214	15	30年3月開始
「ひなたぼっこ」	19	227	210	多世代交流事業 (工作・おやつ作り)
その他		2,635	2,462	避暑シェルター他
こすもすパーティー	1	170	117	地域交流事業(9月)
合計(直営事業)	---	3,282	4,085	

ほっとサロン	62	222	161	品川ボランティアセンター事業
フリースペース「よりみち」	44	215	180	大井第二地区支え愛・ほっとステーション